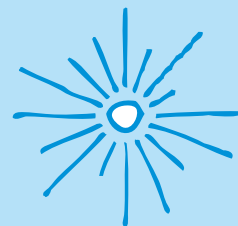


CSR REPORT 2014



北洋銀行のCSR 2014
(環境・社会・経営レポート)



北洋銀行はいい世の中をつくるために
こんな活動をしているのじゃ!

北海道の未来を見つめ、 今できることを。

北海道で生まれ育った北洋銀行を中核とする札幌北洋グループは「北の大地」がふるさと。北海道の皆さまと共に歩み続ける地域金融機関として、CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)に積極的に取り組んでいます。この取り組みは、環境・社会・経済などの幅広い領域に配慮しながらバランスの良い経営を行い、事業活動を通して「ステークホルダー(利害関係者)の満足」と「企業への信頼」を向上させることを目指すものです。

希少生物も多い豊かな自然が広がり、フロンティア精神に富んだ人々が暮らす北海道。その未来を思うとき、豊かな環境とたくさんの笑顔が未来へつなぐ大切さが見えてきます。札幌北洋グループは地域金融機関として、将来にわたる地域の発展、成長に向けて今できることを誠実に実践していきます。



Contents

私たちが考えるCSRとは	P 3
環境への取り組み Environment	
環境保全	P 5
当行自身の環境負荷低減への取り組み	P 9
ビジネスを通じた取り組み	P10
地域社会への取り組み Social	
医療福祉	P13
医療福祉問題への取り組み	P15
教育文化	P17
教育文化への取り組み	P19
地域貢献	P20
地域密着型金融を通じた地域経済の持続的発展に向けた取り組み	P20
経営 Governance	
経営について	P25
お客さま満足度(CS)の向上を目指して	P25
職員の多様な個性を生かし、その能力を十分に発揮できる働きがいのある職場の実現に向けて	P27
積極的なIR活動を通じた株主・投資家の皆さまとの信頼関係構築	P29
危機管理態勢と緊急時業務継続計画に関して	P30
コーポレートガバナンス態勢の強化に向けて	P31
コンプライアンスと顧客保護等の態勢	P32
リスク管理	P33
CSRLレポート2014に対する第三者意見	P36

編集方針

札幌北洋グループが推進しているCSR活動について、CSRに対する考え方や推進体制・取り組み状況などを、環境・社会・経営の切り口で重点的に取り組んでいるテーマを中心にご紹介し、ステークホルダーの皆さまに当グループに対するご理解を更に深めていただくことを目的としています。

報告対象の範囲と期間

特に記載のない限り、株式会社北洋銀行、株式会社札幌北洋リース、株式会社札幌北洋カード、ノースパシフィック株式会社、北洋ビジネスサービス株式会社の5社を対象としています。また、対象期間は、特に記載のない限り、平成26年3月までの取り組み内容を記載しています。

私たちが考えるCSRとは

札幌北洋グループにとっての企業の社会的責任

私たち札幌北洋グループの将来とこれからの地域の未来に寄与するため、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」を新たな重点取組テーマとしてご期待に応えるまちづくりをサポートしていきます。

札幌北洋グループ経営理念

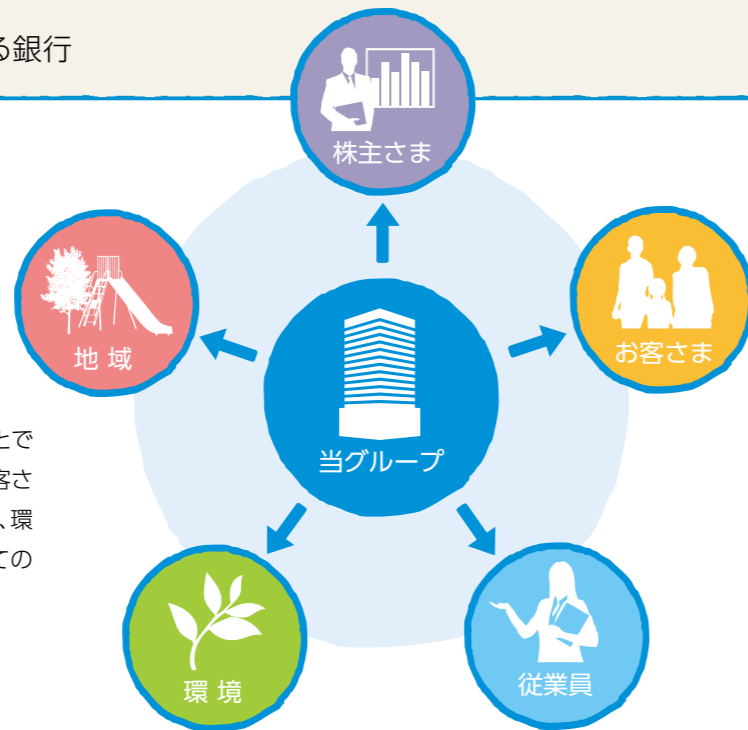
お取引先に良質なサービスを提供し、お客さまと共に発展する。
 企業価値の増大を図り、株主と市場から高い信認を得る。
 職員がその能力を十分に発揮できる働きがいのある職場をつくる。

北洋銀行経営理念

北海道の洋々たる発展の礎となる銀行

札幌北洋グループのステークホルダー

ステークホルダーとは、企業の利害関係者のことです。ただし、金銭的な利害関係のある取引先(お客さま)や株主さまだけを指すのではなく、地域社会、環境、従業員など、企業活動を行う上で関わる全ての主体を含みます。



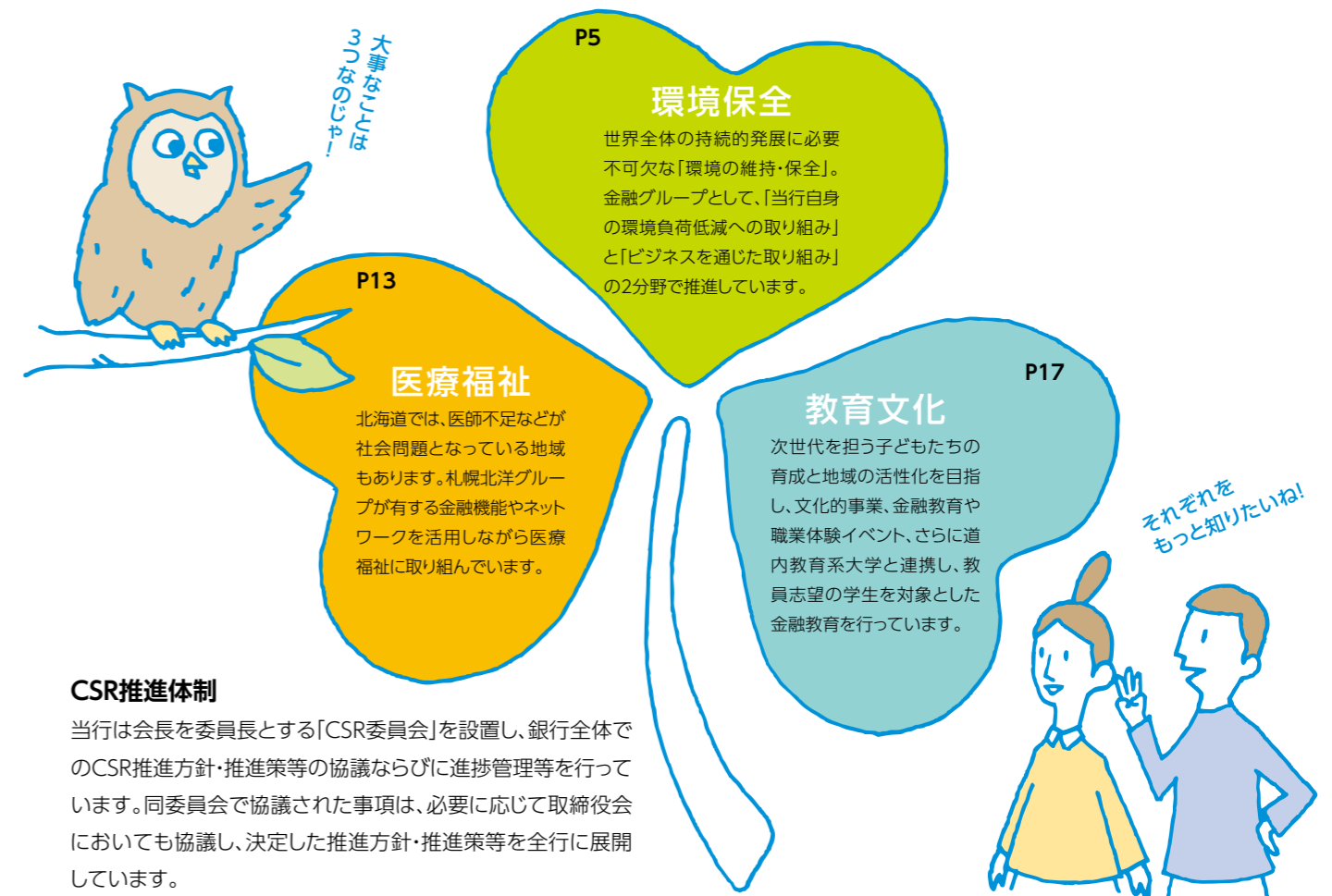
CSR基本方針

札幌北洋グループの「経営理念」に基づき、当グループを支えていただいている全てのステークホルダーの持続的発展に資する行動を全行で実践し、金融商品・サービス・情報等の提供、支援活動に努めます。

3つの大切なこと

CSRにおける重点取組テーマ

地域金融機関に求められる役割・機能などを踏まえ、「社会的課題としての重要度」、「地域の持続的発展における重要度」、「当グループの持続的発展における重要度」の3点から検討し、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」の3テーマとしています。



CSR推進体制

当行は会長を委員長とする「CSR委員会」を設置し、銀行全体でのCSR推進方針・推進策等の協議ならびに進捗管理等を行っています。同委員会で協議された事項は、必要に応じて取締役会においても協議し、決定した推進方針・推進策等を全行に展開しています。

着実な活動が確かな評価を受けています。

第三者評価～FTSE 4 Good Index

世界的な投資インデックスの開発やデータ提供を行うイギリスの専門機関・FTSEによる社会的責任投資(SRI)指数「FTSE4Good Index」は、環境保全や社会貢献、雇用等への取り組みがグローバル基準を満たす企業で構成されています。札幌北洋グループのCSR活動が評価され、平成20年3月、北洋銀行株式会社(当初採用時は、札幌北洋ホールディングス株式)が道内企業で初めて同指数の構成銘柄に採用されました。



北海道グリーン・ビズ認定制度で北洋銀行がランク3に登録

北海道グリーン・ビズ認定制度は、環境に配慮した取り組みを自主的に行う事業所等を登録・認定する北海道の制度。3段階の登録基準のうち、当行は最上位のランク3に認定されています。



北海道グリーン・ビズ認定制度のランク3の認定マーク

「子育てサポート企業」の認定

平成19年に北洋銀行は道内企業で初めて次世代法に基づく「子育てサポート企業」の認定を受け、厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」の使用許可を得ています。また、平成25年にも2回目を取引しており、継続的に子育て支援に取り組んでいます。



くるみんマーク

「中小企業経営力強化支援法」に基づく「経営革新等支援機関」認定

当行は、平成24年11月、経済産業省の「中小企業経営力強化支援法」に基づく「経営革新等支援機関」に認定されました。中小企業の財務内容等の経営状況の分析や事業計画の策定・実行支援の業務に必要な専門的知識、実務経験が一定レベル以上であることが認められたのです。今後も、中小企業の様々な経営課題(創業支援、事業計画作成支援、事業承継・M&A、販路開拓・マーケティング、海外展開、金融・財務)に取り組み「中小企業の経営力の強化」を図ります。

自然は大切なのじゃよ!

環境保全

自然豊かな未来へ、いまできることを。

「環境保全」は、当行の営業基盤である北海道はもちろん、世界全体の発展にはなくてはならないもの。私たちはこの取り組みを、「当行自身の環境負荷低減への取り組み」と「ビジネスを通じた取り組み」の2分野で推進しています。

ほっくー基金設立とほっくー定期預金

北海道の希少動植物を守ろう ほっくー基金

当行は、「環境保全への取り組み」として、北海道の生物の「多様性保護」(生息域を含めた生物保護)を掲げ、北海道の希少動植物を守るための「ほっくー基金」を平成22年に設立しました。設立以来、13先に助成を行い、今年度はさらに6先に寄付を行いました。今後も、ほっくー基金選定協議会の助言のもと、希少動植物の保護に取り組む団体などを応援していきます。



北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク



釧路市動物園



北海道生物多様性保全活動連携支援センター



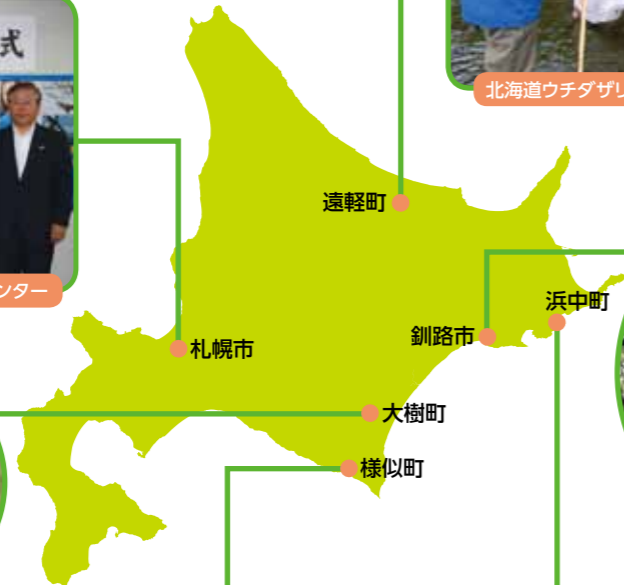
湿原研究所



アポイ岳ファンクラブ



えんの森



ほっくー定期預金

「ほっくー基金」への取り組みとして「ほっくー定期預金」をお取り扱いしています。お客さまから預金いただいた金額の0.01%相当額と、満期案内不発行により削減できる郵送料相当額を「ほっくー基金」に拠出します。お客さまは「ほっくー基金」を通じて間接的に基金に拠出・参加し、北海道の生物多様性保護に貢献していただくことができます。

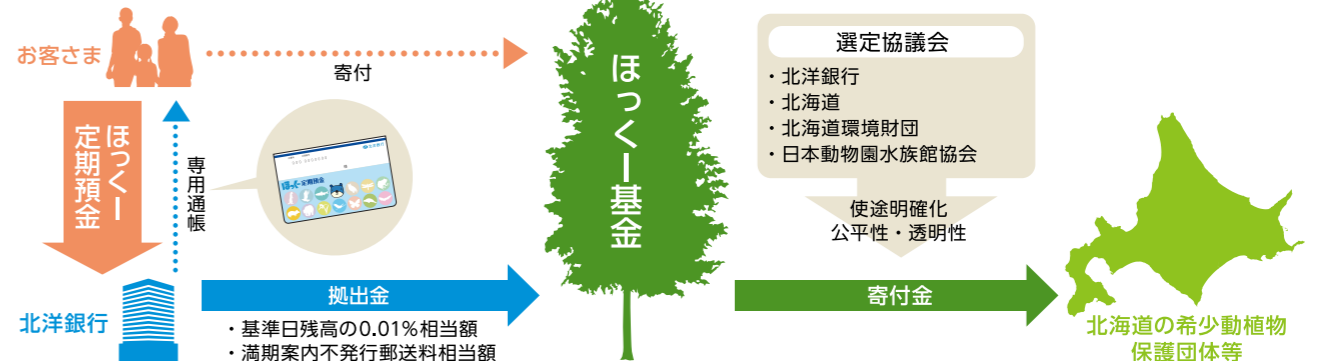
期間1年の自動継続型定期預金で、預金金額は1,000円から、金利は店頭表示金利です。通帳は当預金専用で「環境配慮型通帳」を採用。通帳の素材に、地球環境に配慮した紙クロスと植物由来成分のインキを使ってリサイクル適性を向上させ、塩化ビニールを用いない磁気テープの採用で廃棄適性を向上させました。表紙には北洋銀行のキャラクター「ほっくー」と北海道の動植物のモチーフを、記帳ページには北海道の希少動植物を、皆さまに広く知っていただくため掲載しています。

平成26年度の募集期間は、平成26年4月1日(火)～平成27年3月31日(火)。ただし、募集上限を今年度累計500億円に設定し、上限となり次第、今年度の募集を終了させていただく予定です。また、ほっくー定期預金は、マル優などの法律上必要な場合を除き、原則として「満期のご案内」を発行いたしません。紙資源削減による環境保護へのご協力を、お客さまにお願いしています。



ほっくー定期預金通帳

「ほっくー基金」概略図



寄付先	
平成22年度	旭山動物園
	おびひろ動物園
	釧路市動物園
平成23年度	円山動物園
	釧路市動物園
	黒松内町
平成24年度	ユウパニコザクラの会
	釧路市動物園
	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
	尻別川の未来を考えるオビラメの会
平成25年度	辻井達一ラムサール湿地基金
	北海道大学植物園
	猛禽類医学研究所
	アポイ岳ファンクラブ
	NPO法人えんの森
	釧路市動物園
	一般社団法人湿原研究所
北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク	
北海道生物多様性保全活動連携支援センター (HoBICC)	

ほっくー基金口座の設置

(募金専用口座)

北海道の生物多様性保護に、当行の役職員はもとよりお客さまに広くご参加いただき、道民一丸となって取り組めるよう「ほっくー基金」の専用寄付口座を設け、協力金形式の募金を受け付けています。各営業店の窓口で、お振込手数料無料で受け付け、個人から法人のお客さままで広く皆さまのご協力を募っています。

ほくく一基金
応援1

取り戻そう! 稚咲内砂丘林

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

稚咲内砂丘林



テーマは よみがえれ、みんなの砂丘林

国立公園内特別保護地区の稚咲内砂丘林再生に取り組むNPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク。そうした指定地域で住民が森林再生活動を行うのは全国でも非常に稀です。みんなの砂丘林をよみがえらせようと現地産のドングリを集め、苗木を育て、植えるという地道な活動を10年近く続ける中では失敗もあり、担い手不足などの課題に直面することも。しかし、現在では苗木の順調な生育がみられるまでになっています。当行は、この活動に「ほくく一基金」の助成を行い応援しています。

植樹イベントに集まった皆さま



植樹作業
ドングリの木が育って森になるのが楽しみ!

植樹作業
森林の再生は時間もかかりますが、それだけ夢がある取り組みです。毎年成長が楽しみですなので、またぜひ参加したいです。



昨年の秋に植樹した苗木

3年後にはこんなに大きくなります



スタッフからの一言

苗木を管理するための草刈り作業や耕耘作業は大変ですが、日々苗木の成長を目にすることができ、とても楽しく有意義な活動ができています。これもひとえに、日頃の地道な作業にご協力いただいている地域の方々や、関係者の皆さまのお陰です。苗木が大きく育ち、森になるまでは長い年月がかかりますが、これからも地域と一体となったこの取り組みを継続していきます。ぜひ一度、苗木の成長を見にいらして下さい。



NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク スタッフ
吉原 努さん

活動内容

稚咲内砂丘林とは

稚内市、豊富町、幌延町にまたがる砂丘の上に4,000年かけて形成された森林地帯。南北25km以上、幅約3kmの森林内に170以上の湖沼群があり、貴重な動植物の宝庫。国立公園特別保護地区に指定されています。



写真提供：岡田 操氏

昔 過去には豊かな森林でした。



今 牛の横断により森に強風が吹き込み、約3haの森林が失われ無立木地化(裸地状態)しました。



これまでの活動内容

平成17年度から現地産14,000個のドングリを森林再生地に蒔きましたが厳しい環境により失敗。20年度からは苗木を育てて植樹する方法に切り替え、ミズナラなど約4,000本を植えて生育に成功。25年度、3カ年の植樹計画を作成し、新たな植栽地を造成するため、身の丈以上もある雑草木の刈り取りや耕作を行うなど整備。秋に411本の苗木を植樹し、従来と合わせて4,253本が順調に成育中です!

森林再生への目標

苗木が森になるまでには長い時間がかかるため活動の継続が必要です。より多くの住民に参加してもらい、特に若い担い手を育てながら活動を進めていきます。目標は、地域に愛される森づくりです。

ほくく一基金
応援2

アポイ岳の自然を守ろう!

アポイ岳ファンクラブ



テーマは アポイ岳の自然を次世代に引き継ぐために

花の名山として愛されるアポイ岳。その高山植物群落は国の特別天然記念物に指定されています。しかし、大量盗掘や鹿の害、地球温暖化などの影響で花が激減しているのが現状です。アポイ岳ファンクラブは、アポイ岳の自然を次世代に残すことを目的に設立。盗掘防止活動や登山道・山小屋の整備、教育活動などに取り組み、平成17年からは行政や研究者とともに高山植物の再生実験も始めました。当行は、この活動に「ほくく一基金」の助成を行い応援しています。

クラブからの一言



アポイ岳ファンクラブ 事務局長
小林 弥生さん

平成9年に様似町の町民有志が設立したアポイ岳ファンクラブは、山の環境整備から、啓発のための講演会・展示会の開催、情報誌の発行まで幅広く活動しています。平成17年には「アポイ岳再生委員会」を組織し、行政や研究者とともに5合目に高山植物の再生実験地をつくり、再生手法の検討もスタート。関係者が一体となって「花の山、アポイ」の復元に取り組み、美しい自然とそれを守る方法を次世代に繋いでいけるよう頑張っています。



登山道整備
植物踏付け防止のため、登山道以外を歩かないよう、段差を和らげ歩きやすくする作業。



再生作業
再生地への種・苗の植え付けや、雑草・石などの除去作業を行っている様子。



再生作業に集まった皆さま

アポイ岳の高山植物 希少性は世界レベル

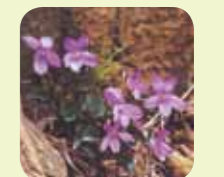
標高がおおよそ810mと低いにもかかわらず、様々な高山植物が生ずるアポイ岳。理由は、カンラン岩という特殊な地質と、海に面しているため風が強く、海霧が発生する高山と似た涼涼な環境だからです。ヒダカソウ、アポイカンパなどのアポイ岳の固有種は文字通り世界中でここにしか生育しない植物で、ほかにも希少な高山植物がいっぱい。アポイ岳の自然は地元だけでなく世界レベルで重要なのです。



ヒダカソウ
高さ20cm程の多年草で清楚な白い花をつける。アポイ岳の固有種。



エンキソミレ
高さ15cm程の多年草で名の通り黄色のスミシ。日高の固有種。



アポイタツボスミレ
高さ10cm程の多年草でハート形の葉と紫の花が特徴。

参加者からの声

シカの影響調査に参加し、自動撮影のカメラとシカを排除する柵を設置しました。シカがどこに出没し、シカの被害のない場合の植生を調べるのです。多くの参加者と充実した活動ができました。(札幌市 車田 利夫さん)

世界に500種以上あるというサクラソウ。アポイ岳の代表といえば固有種の変種のサマニユキワリ。厳しい環境に耐えながら咲く花は感動的。私たちに耐えながら咲く花は感動的。私たちの活動でたくさんの花を咲かせ、登山者に感動を与えたいものです。(様似町 板谷 紀夫さん)

小冊子を通じた広報活動

地元様似町をはじめ多くの登山者に親しまれているアポイ岳。その貴重な高山植物群落が衰退しつつある現状と、アポイ岳で行っている再生活動について広く知ってもらうために小冊子を作成しています。



環境保全

医療福祉

教育文化

地域貢献

経営について

当行自身の環境負荷低減への取り組み

ほっくーの森

北海道が進める「ほっかいどう企業の森林づくり」と、道独自のカーボンオフセット認証を組み合わせた「北海道カーボンオフセット活用型森林づくり」。この取り組みに、当行が道内企業として初めて参画しました。

北海道伊達市が行っている木質燃料ペレット暖房機器を利用した二酸化炭素削減による削減量の提供を受け、カーボンオフセットを行いながら「ほっくーの森」で植樹を行い、森を育てています。



「ほっくーの森」植樹

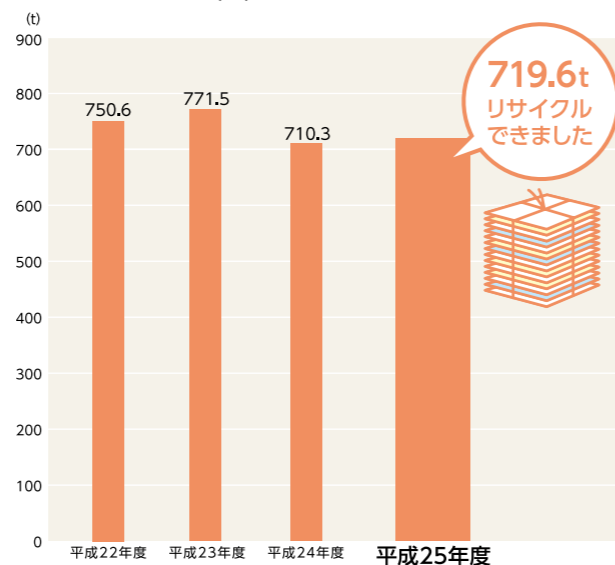
紙使用量の削減

印刷物などに、再生紙をはじめ環境に配慮した製品を使うよう札幌北洋グループ全社で努めています。当行では、行内イントラネットの利用により通達文書のペーパーレス化を進めています。また、当行のATMは、キャッシュカードのお取引引きでお取引明細の発行・不発行を選択できます。

古紙リサイクル

保管期間が過ぎた廃棄伝票や帳票書類などの重要書類は、適切な処理をした上でリサイクルされています。まず、24時間ビデオ監視システムなどを備え、セキュリティ強化された古紙リサイクル業者の株式会社ジェリーピー北海(当行5%出資)が破砕機で機密抹消処理します。処理が終了した書類などは、トイレトーパーなどへリサイクルされています。

古紙リサイクル状況(※)



※：北洋銀行の古紙リサイクル業者への持込み状況

省エネルギー

札幌北洋グループ全社をあげて省エネルギーに取り組んでいます。COOL BIZ、WARM BIZの実施や、省電力機器の導入、なかでもパソコン・端末機などのOA機器は消費電力のより少ない機器へ入れ替えを進めています。店舗設備も、

高圧受電設備や空調設備機器を消費電力の少ない高効率型機器を選んで入れ替え、照明器具のLED化にも取り組んでいます。

低公害車への入れ替え

営業用車両は、低排出ガス認定車両への入れ替えを全面的に進め、その大半が環境負荷の小さい「軽自動車」です。営業用車両の一部には「ハイブリッドカー」を使用しています。

グリーン購入

環境負荷を減らす活動の一環として、物品の購入や借受け、サービスを受ける場合には、価格、品質、利便性、デザインのほか、環境への負荷ができるだけ少ないものを優先的に選択する「グリーン購入」に取り組んでいます。お客さまへのPR品(ノベルティグッズ)を選ぶ際も「グリーン購入」に努めています。

環境関連データ

北洋銀行の実績(※1)

	(単位)	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
二酸化炭素(CO ₂)排出量合計(※2)	ton-CO ₂	29,142.06	22,211.43	26,276.38	32,930.81
灯油	ton-CO ₂	505.87	509.28	449.98	399.92
重油	ton-CO ₂	2,341.84	1,784.90	1,595.74	1,572.87
ガス	ton-CO ₂	2,932.61	2,673.58	2,838.73	2,713.16
温水	ton-CO ₂	616.60	572.74	557.51	546.55
電気	ton-CO ₂	22,745.15	16,670.94	20,834.42	27,698.31

※1:改正省エネ法に基づく調査結果、北洋銀行全社が対象
 ※2:改正省エネ法及び温対法に基づく換算係数により算定

ビジネスを通じた取り組み

環境ビジネスファンド

平成23年7月に、環境関連に特化した道内初の「環境ビジネス支援ファンド」を設立しました。これは、環境関連のビジネスを行うお取引先の株式を当行が引き受けることで、お取引先企業がより発展し、信用力が高まり、地域経済の活性化

につながることを目指すファンドです。ファンド総額は3億円で、環境保全や再生エネルギー分野に取り組む道内中小企業を中心に、株式公開を目指していないお取引先も含め、幅広く対象としています。

PFI事業

当行は、公共施設の整備を民間企業が行うPFIに積極的に取り組んでいます。これは、民間企業のノウハウを最大限に活かして環境・省エネに大きく貢献できる事業で、多くは計画の段階からサポートしています。

旭川市立高台小学校の整備事業では、エコポイド(3層吹抜空間)等により自然エネルギーを最大限活用する校舎が完成しました。また、稚内市生ごみ中間処理施設の整備事業では、生ごみのメタン発酵で発生したバイオマスを回収し、施設の内外で有効活用する「稚内市バイオエネルギーセンター」が建設されています。



稚内市バイオエネルギーセンター



旭川市立高台小学校

成長分野を対象とした融資ファンド「飛翔NEO(はばたきネオ)」

平成26年4月から成長分野に対して融資面でサポートする、ほくよう成長サポートファンド「飛翔NEO(はばたきネオ)」の取り扱いを開始しています。このファンドは、様々な種類の再生可能エネルギーの宝庫である北海道の地域性を考慮し、「環境エネルギー」分野などを中心に「農林水産」や「観光産業」など8分野を対象としています。また、成長分野の融資は返済期間が10年超となる場合が多いため、最大15年まで取り扱い可能としています。既に「太陽光発電事業」、「木質バイオマス設備」、「風力発電所改修」などに融資実績があり、引き続きお客さまの事業拡大支援を行ってまいります。

名称	ほくよう成長サポートファンド「飛翔NEO(はばたきネオ)」
ファンド総額	800億円
貸出金額	1貸出あたり 5百万円以上10億円以内
貸出期間	1年以上15年以内
返済方法	元金均等返済または元利均等返済
資金用途	以下の8成長分野に資する資金(運転資金・設備資金) ①医療介護事業 ②農林水産 ③環境エネルギー ④事業継承・M&A ⑤事業再編 ⑥社会インフラ ⑦観光産業 ⑧青函連携

【取組事例】

株式会社ハルキ(森町) 製材およびプレカット加工販売

- 平成25年度エコアクション21認証取得
- 木造住宅用のプレカット資材を中心に営業している企業です。地元の道南杉材の地産地消や造林に取り組み、環境に配慮した経営を行っています。平成25年度には、環境エネルギー事業として0.5メガワットの太陽光発電設備を取り入れ、国内クレジット承認を受けるなど二酸化炭素削減に取り組んでいます。



再生可能エネルギー融資

平成24年7月にスタートした再生可能エネルギーの固定買取制度による道内の太陽光発電事業などの再生可能エネルギーへの総投資額は5,000億円超といわれています。

当行では、北海道内の再生可能エネルギーによって得られる利益を道内のお客さまに還元するため、法人部内に再生可能エネルギー専担者を配置。発電事業への参入を検討されるお客さまにタイムリーな情報提供とアドバイスを行い、再生可能エネルギーの融資強化を図っています。期間が10年を超える融資にも対応するなど当行がもつ様々な審査能力を活かし、「太陽光発電」をはじめ「風力」「バイオマス」など再生可能エネルギー資源が豊富な北海道の成長分野支援策として推進しています。

また、地域金融機関の中では先進的なプロジェクトファイナンスを組み立て、様々なファイナンススキームを提供しています。融資だけではなく、将来有望な再生可能エネルギー発電所の

メンテナンス業務説明会を開催するなどの支援をすべて行っています。

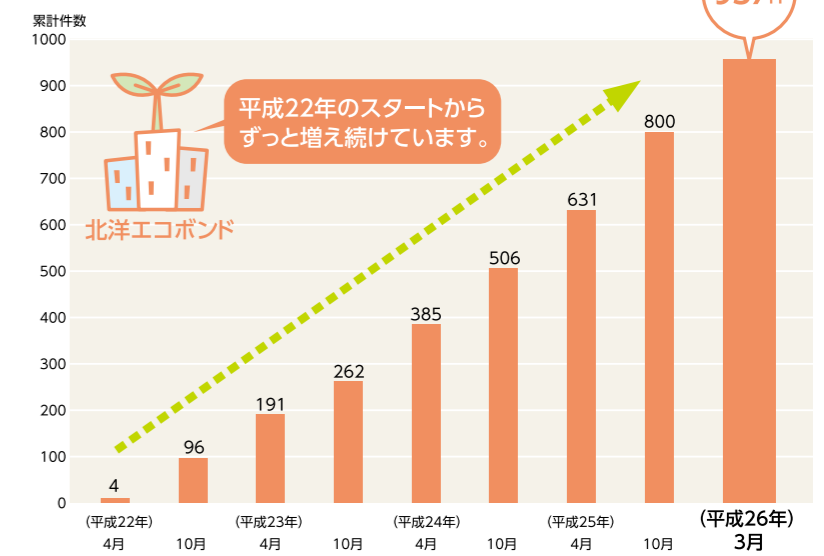


伊達ウインドファーム

環境配慮型企業向け私募債「北洋エコボンド」

環境に配慮した取り組みを自主的・積極的に行っている企業に対して有利な私募債(北洋エコボンド)を発行し、環境配慮型企業をサポートしています。環境への取り組みは北海道、札幌市などの地方公共団体とも連携を強めていることから、主な対象企業を、北海道グリーンビズ認定制度・さっぽろエコメンバー登録制度の登録企業としています。平成22年4月の取り扱い開始以来、多くの環境配慮型企業の皆さまにご利用いただいています。

エコボンド取扱状況(平成22年4月～平成26年3月)



【取組事例】

1. 野外科学株式会社(札幌市) 技術コンサルタントおよび環境モニタリング業

- 平成12年 ISO14001(環境マネジメントシステム)取得
- 自然環境と社会環境の総合コンサルタントとして、地質・水文・生物調査・水質調査・ダイオキシン分析等、様々な環境分析を行っています。また、開発途上国における環境問題に当社の環境調査技術を導入すべくナパールに子会社を設立し、環境保全に貢献しています。



川とのふれあい学習へのサポート活動

2. 越智建設株式会社(苫小牧市) コンクリート杭製造・工事業

- 平成24年度 北海道グリーン・ビズ認定制度
 - 「創意あふれる取組部門 もったいない心分野」認定
- 北海道電力(株)との共同試験研究により、発電所より排出されるフライアッシュ(石炭灰)を主原料とした人工骨材を開発。路盤材として土壌環境基準をクリアし、エコマーク商品に認定。当社のリサイクル技術が、産業廃棄物の大幅削減に貢献しています。



リサイクル工場施設の一部

個人向けローン

エコリフォームローン

太陽光のクリーンなエネルギーを利用する太陽光発電設置工事の普及を後押しし、CO2の排出量削減に協力するため、太陽光発電設置工事を対象としたローンの金利を通常のリフォームローン金利より優遇しています(平成22年6月より取扱開始)。

「エコカー」に対するマイカーローン金利優遇

燃費性能が優れたエコカーの購入・買い替え促進をサポートしていくため、エコカー(新車)を対象とするお申込みの場合、ローン金利を通常マイカーローン金利より優遇しています。

低公害車のリース

札幌北洋リースは、お客さまが車両のリースを検討されている場合、低公害車のリースを積極的にご提案しています。平成25年度は538件/1,055百万円の低公害車リースを取り扱いました。



医療福祉

笑顔が広がるふれあいと助け合い。

医のスペシャリストと手を携えてこれからの社会と一人ひとりにとって大切なテーマに取り組む。元気な笑顔の輪が大きく広がっていくように。



地域医療への貢献と道内医科大学との連携

当行は、より健康に元気に暮らせる道民の心身づくりと、地域医療に役立つこと、産学が手を組み互いに発展することを目的として、道内の3つの医科大学と包括連携協定に基づく事業を行っています。札幌医科大学とは、平成23年10月から大学の各診療科の特徴や最新事例、研究成果を紹介するFMラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」を毎週放送。加えて、その内容を収録した冊子の発刊と出演教授陣による「リレー公開講座」も開催しました。旭川医科大学とは、平成23年4月から10月まで先端医療を中心に遠隔医療などで地域医療を活性化させている大学の取り組みを紹介するAMラジオ番組を放送しました。そして、北海道大学とは「市民医療セミナー」を開催しています。



北洋銀行医療総合アドバイザーの立場からCSRを考える。

北海道大学大学院医学研究科 がん予防内科学講座特任教授 浅香 正博さん



平成23年4月より、横内頭取（現会長）から依頼されて北洋銀行の医療総合アドバイザーを務めています。私は、北大医学部消化器内科教授を平成23年3月に定年で退職してから、医学部内にがん予防内科という新しい講座を立ち上げ、最新のがん予防の知識を医学部の学生や医師だけではなく、一般市民に還元しています。ですから、北洋銀行

のCSRと私の考えは見事に一致したのです。CSRの一環として北洋大通センター4階のセミナーホールを使用して市民の方々に最新の医療知識を無料で提供することにしたのです。講師は、北大病院の教授などが国の第一人者に依頼し、内容は市民の方々が最も知りたい医療のテーマを選びました。これまで、平成23年には6回、その後は年に8回の講演を行い、毎回100名以上の聴衆が集まり、熱心に聞いて質問も活発にされています。終了後はアンケート調査を行い、演者の先生に還元しています。このような北洋銀行のCSRの成功は全国的に見ても珍しいと思います。



講演風景

市民医療セミナーの開催

北海道大学とは、平成23年度に当行の「医療総合アドバイザー」に就任していただいた北海道大学大学院医学研究科がん予防内科学講座特任教授の浅香正博氏を総合司会として、市民の皆さまを対象に「市民医療セミナー」を開催しています。これまでに計21回行い、参加者は延べ2,500名を数えます。今年度は、計8回の開催を予定し、各医療分野の専門家を講師に招いています。セミナー参加者からは、身近なテーマで大変わかりやすいと毎回好評で、継続を希望する声をいただいています。



市民医療セミナー

お客様の声

皆さまからたくさんの声をいただきました。今後も様々なテーマで開催していくことにしています。

2013年度 第6回参加者アンケート集計結果より

テーマは 膝はお元気ですか いつも楽しく歩くために
北海道大学 理事・副学長 北海道大学大学院医学研究科 教授 講師 安田 和則

膝痛で悩む人も多いと思います。大腿四頭筋のトレーニング、水中歩行など、とても参考になりました。(40歳代、女性)

大変わかりやすい講義でした。今日から予防のために、大腿四頭筋の強化に努め、体重増加に気を付けます。(50歳代、女性)

本日のセミナーはとても参考になりました。大変勉強になりました。安田先生のセミナーよくわかりました。(70歳以上、男性)

2014年度 第1回参加者アンケート集計結果より

テーマは がんはどうしてできるのか?
北海道医療大学看護福祉学部 教授 講師 小林 正伸

「自分の頭で考えることが大切、その為の正確な情報が必要」～感銘を受けました。(50歳代、男性)

やはりタバコはがんになりやすいですね、タバコの煙は吸わない人には迷惑です。(60歳代、女性)

癌細胞についての知識が大いに得られた。痩せすぎも良くないということは初めて知りました。(70歳代、男性)

2014年度 第2回参加者アンケート集計結果より

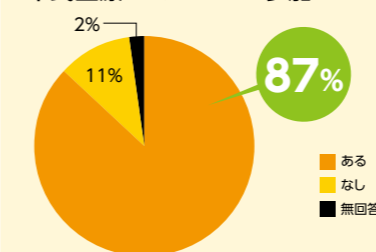
テーマは 内視鏡治療はここまで進歩した
北海道大学病院光学医療診療部 助教 講師 小野 尚子

大腸がんを経験したことから内視鏡に興味があった。映像が多く非常にわかりやすい。(60歳代、男性)

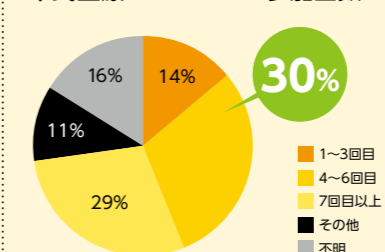
資料の作成、配布が行われるようになり、大変ありがたい。今後やってほしい。(60歳代、男性)

動画を多く活用され、普段見ることができなかったものを見て、大変貴重なセミナーでした。画像写真が多く理解しやすかった。(70歳以上、男性)

市民医療セミナーへの参加



市民医療セミナーへの参加回数



市民医療セミナーへの参加理由



医療福祉問題への取り組み

地域がこれからも発展を続けていくためには、社会インフラの維持・向上が必要です。しかし、北海道の地方では、医師不足など重要な社会インフラの「医療福祉」が課題となっています。当行は、札幌北洋グループがもつ金融機能やネットワークを活用しながら「医療福祉」の維持・向上に積極的に取り組んでいます。

専門部署設置

医療機関や福祉・介護事業者の皆さまに情報提供や取引推進、開業支援などのサポートをきめ細かく行っていくために、平成22年5月に法人部内に「医療・福祉支援室」を設置しました。平成22年10月には札幌・旭川・函館に医療取引推進専任者を置き、管内の医療・福祉・介護事業者のサポートを強化しています。さらに、平成23年4月から釧路・北見、10月からは帯広・小樽・苫小牧にも専任者を置いています。なお、平成26年6月からは「医療・福祉サポート課」に改編しています。



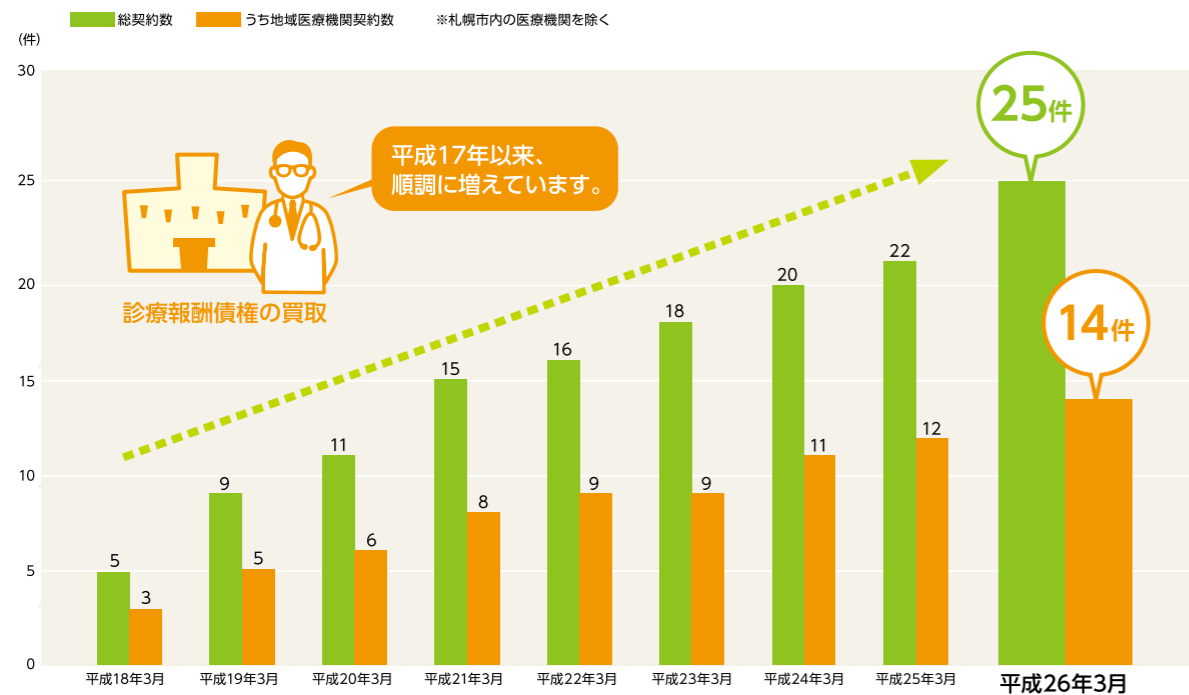
医療取引推進担当者研修

診療報酬債権の買取による支援

医療機関がもつ診療報酬債権の買取を行うことで、一般の融資とは全く違う手法で医療機関の資金調達をお手伝いしています。担保や保証人などの問題で従来型の融資に躊躇していた医療法人にも利用いただける方法で、平成17年の取り扱い開始

以来、利用数は順調に増えています。これからも様々な方法で、少しでも多くの医療機関の資金調達をお手伝いし、地域医療を支えていきます。

診療報酬債権流動化の契約法人数



がん検診率向上への支援

当行は、北海道とがん対策推進に関する連携協定を結び、がんの正しい知識を普及させるための啓発運動や、がん検診の受診を促進させる取り組みに協力しています。北海道主催の大腸がん検診の受診促進をPRするイベントが帯

広市内の大型商業施設で行われ、当行はイベントの宣伝やノベルティグッズの提供などで協力しました。大腸に似せた全長7メートルの大型遊具「大腸トンネル」など、子ども向けのアトラクションが人気を集め、延べ1,000名が来場しました。



会場全景



移植医療への協力

当行は、道内の地域医療の問題に取り組む中で、移植医療についての啓もう活動を行っています。そのひとつとして、NPO法人北海道移植医療推進協議会のご協力のもと、全店舗に「臓器提供意志表示カード」を設置しています。人の命に直結する移植医療は重要な課題です。多くの人が臓器移植の必要性を認識し、理解を深めることが推進への近道だと考えています。



臓器提供意志表示カードの設置

骨髄バンク活動への支援

尊い命のために骨髄移植の推進とドナー登録者の拡大活動を行っている「北海道骨髄バンク推進協会」。当行は、協会設立以来約20年間にわたって、事務局の運営に協力し、経済的支援(寄付)など様々な支援をしています。また、骨髄ドナー休暇を設けて社員の貢献活動も推し進めています。



北洋大通センター地下での普及啓発活動



大学等でのパネル展示



お勉強だけではないのじゃよ!

教育文化

豊かな心と、輝く瞳をはぐくむ。

子どもたちが心豊かに、瞳を輝かせて育つまちへ。
暮らしに潤いと感動、笑顔が広がるふるさとへ。
そんな想いを叶えるためのさまざまな取り組みに努めています。

テーマは **ありがとう**

第41回 主催/毎日新聞社 協賛/北洋銀行

中学生作文コンクール

平成26年1月7日、第41回中学生作文コンクールの表彰式が当行本店で行われました。今回のテーマは「ありがとう」で、全道から2万点を超える応募があった中、文部科学大臣奨励賞をはじめ賞に選ばれた38人に賞状と記念品が贈られました。なお、表彰式は札幌だけでなく道内の4地区でも行われています。当行はこの中学生作文コンクールに平成25年度から協賛しています。

あなたが会った「ありがとう」のドラマ



北洋大通センターでの表彰式

全道22,242点の応募の中から選ばれた入賞者



特選の入賞者

文部科学大臣奨励賞	渡部 紗季(旭川市 北門中3年)
北海道知事賞	保川 夢衣(札幌市 伏見中3年)
北海道中学校長協会会長賞	古本 聖奈(室蘭市 翔陽中3年)
北海道学校図書館協会会長賞	角田 涼(釧路市 鳥取中3年)
毎日新聞社賞	本田 夏凜(函館市 的場中1年)
北洋銀行賞	亀谷 千尋(砂川市 砂川中2年)

入賞作品集

「ありがとう」

表彰式終了後、入賞作品や表彰風景をとりまとめた作品集を発行しています。北洋銀行本店にも備え置いていますので、ぜひご覧ください。



特選入賞者からの一言



文部科学大臣奨励賞を受賞した
渡部 紗季さん
(旭川市 北門中学校3年)

この度は、最高位の文部科学大臣奨励賞を頂き、大変光栄です。ありがとうございます。
私は、このコンクールに出会えたお陰で、自分と向き合い、思春期のイライラともどかしさを自分なりに理解出来たと思います。大人になって、頭で記憶した勉強の幾つかは忘れても、心が記憶した作文はきっと忘れないと思います。この作文コンクールに協力して下さった沢山の方々から感謝致します。本当にありがとうございました。

今年も大盛況! 札幌交響楽団による
北洋銀行 presents クラシックコンサート

北海道の文化がますます盛んになるよう、平成24年から札幌交響楽団のクラシックコンサートを年に2回開催しています。これまでに、札幌・深川・室蘭にて計4回行い、延べ6,000名のお客さまを無料でご招待し、名曲の数々をお楽しみいただきました。地域社会への貢献のひとつとして、本格的なクラシック音楽を身近に感じていただき、少しでも地域の芸術文化振興のお役に立てるよう積極的に取り組んでいます。



第三回クラシックコンサート 室蘭



第四回クラシックコンサート 札幌

演奏曲目 第四回 平成25年12月25日 札幌コンサートホール Kitara

- ベートーヴェン 交響曲第7番 イ長調 op.92
- フンパーディング 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」序曲
- チャイコフスキー パレエ「くるみ割り人形」より
- モーツァルト 歌劇「魔笛」序曲
- J.シュトラウスII 喜歌劇「こもり」序曲
- ワグナー 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲



第二回クラシックコンサート 深川

お客さまの **声**

平成25年7月31日開催
第三回クラシックコンサート
室蘭市文化センター フリーコメントより

様々な声が寄せられ、来場者9割の方から「大変良い」「良い」とのお答えをいただきました。

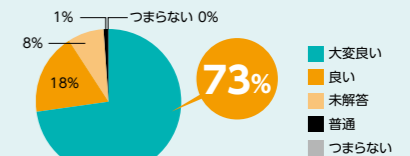
社会貢献の方策として、札幌のコンサートを選んで下さる企業のセンスが素晴らしい。

北洋銀行が札幌の文化活動を支援していることを初めて知りました。地域の人に更に還元する取組は素晴らしいと思います。

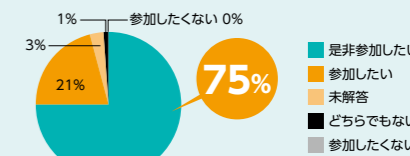
公共的な役割を持つ銀行が、文化的活動に関心を持ち取り組んでいるところに好感が持てます。また大きい企業でなければ大きなホールでのコンサートを企画する力は無いと思っています。

北海道の地域銀行として「ものづくり」の支援、コンサートと、大活躍されていることに大変敬意を払います。

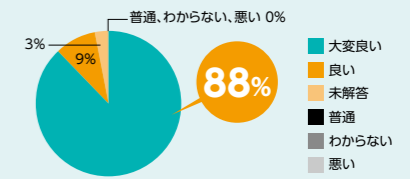
コンサートはいかがでしたか?



今後もこのようなコンサートがあれば、参加したいですか?



北洋銀行がクラシックコンサートを開催することについてどう思いますか?



教育文化への取り組み

地域のこれからの発展をサポートするため、金融機関としての特性を活かし、次代を担う子どもたちなどへの金融教育に積極的に取り組んでいます。子どもたちが金融や経済の仕組みについての正しい知識を身につけ、優れた経済・経営感覚をもった社会人に成長することが、地域経済の維持と発展につながるからです。

各種金融教育の実施

北海道の未来を担う子どもたちのための出張授業や本支店見学、大学での講座をはじめ各種金融教育を行っています。平成25年度は、小学生から大学生まで653名の参加があり、お金の大切さや仕組み、金融機関の役割などを学んでもらいました。また、高校生の職場体験学習などを受け入れ、道内の学生に実社会を経験する機会を提供しています。さらに、小学生を対象とした職業イベントとして「夏休み!子ども体験アカデミー」や「ママナビKids職業体験」にも出展しています。



職場見学 (大谷地支店)

金融教育の実施状況

実施年度	実施回数	参加人数
平成21年度	21	278
平成22年度	33	274
平成23年度	26	315
平成24年度	28	498
平成25年度	41	653



金融経済体験学習プログラム



夏休み!子ども体験アカデミー2013

国際教育音楽祭「PMF」

世界の若手音楽家の育成を目的としたPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)に協賛しています。PMFは、平成2年から毎年開催されている世界三大教育音楽祭のひとつ。オーディションで選ばれた若手音楽家たちが札幌に集い、教授陣の指導のもと、夏の約1カ月間にわたって札幌を中心とした各所で公演やセミナーを繰り広げています。当行では、平成24年から音楽祭の期間中にミニコンサートを開催。お取引先の皆さまを当行本店にあるセミナーホールにご招待し、アカデミー生が奏でる音色をお楽しみいただいています。



写真提供:(公財)PMF組織委員会



北洋大通センターでのミニコンサート



地域貢献

ふるさとに笑顔があふれる未来を。

地域とともに、様々な可能性や課題に取り組むことでお客さま一人ひとりの想いに応えられるよう努めています。ふるさとの未来に、もっと笑顔があふれるように。

地域密着型金融を通じた地域経済の持続的発展に向けた取り組み

地域に密着して健全な資金の需要に対応しながら、それぞれの経営課題の解決を全力でサポートするなど、お取引先と地域経済のこれからも続く発展に貢献できるよう取り組んでいます。



青函振興を応援します!

青函振興への取り組み

平成27年度の北海道新幹線開業を見据えた観光振興と、青函両地域の経済活性化に向けた様々な取り組みを行っています。

ボードの設置

北洋大通センター1階と函館中央支店舗入口に、北海道新幹線開業に向けたカウントダウンボードと北海道新幹線開業応援ボードを設置しました。多くの方の目に留まることで、さらに広く認知



北洋大通センター・函館中央支店に設置しているカウントダウンボード

していただくという狙いです。

北海道庁の北海道新幹線開業PRキャラクター「どこでもユキちゃん」と当行のキャラクター「ほっくー」



函館中央支店の青函振興コーナー

青函産業振興室

平成25年4月に青函産業振興室を設置し、函館に専担者1名を駐在させて地域により密着した活動を展開しています。青森との取引拡大を希望する道内の企業・団体と青森側の企業・団体とのビジネスマッチングの実施や、道南地域を中心とする自治体、観光協会などのプロモーションをサポートしています。

担当からの一言

地域活性化に向けて、道南地域にある当行14支店と緊密に連携しています。北洋銀行と青森銀行のお取引先による交流会を開催した際には、「新幹線によって時間的距離を短縮でき、メリットを感じた」といった前向きなコメントを多数頂きました。一年半後に迫った新幹線開業に向け、支店・本部一丸となって地域を応援していきます。



青函産業振興室 大内調査役 (函館中央支店駐在)

農業を起点としたフードビジネスを育てる

食のプロダクトデザイン(FPD)

道内の基幹産業である農業・食品産業をフードビジネスと捉え、生産・加工・販売のそれぞれに対し、最適な解決策を提供しています。商品開発や改良、マーケティング、ブランディング、セールスなどに欠かせない「商品力」「営業力」の強化に向け、お客さまの本業支援となる「食のプロダクトデザイン事業」を実施し、「課題抽出」「課題解決」「効果測定」などの幅広い支援を展開しています。このようなトータルサポートによって農業を起点としたフードビジネスの育成・強化につなげています。平成25年度は47社に対して商品ブラッシュアップ個別相談会を、20社にセールスサポートを行いました。また、新たに商品パッケージの改良や海外販路サポートなどの支援メニューを追加し、事業の拡大に努めています。



百貨店バイヤーと株式会社丸三北栄商会の個別相談の様子

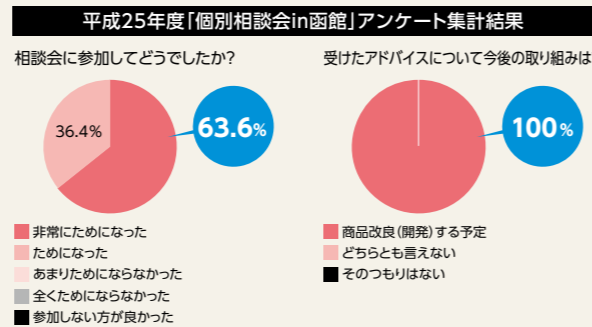
担当からの一言



お客さま(企業)からは、「他行にはない支援であり、ここまで支援してくれて嬉しい」とご好評をいただいています。実際に首都圏百貨店やスーパーと成約した道内企業もあり、北洋銀行としてもやりがいのある事業です。また、お客さまから「北洋さんは素晴らしい事業をやっている。そして行員の対応も素晴らしく、親切丁寧な対応だった。」とお言葉を頂いたこともあり、とても嬉しく思っています。

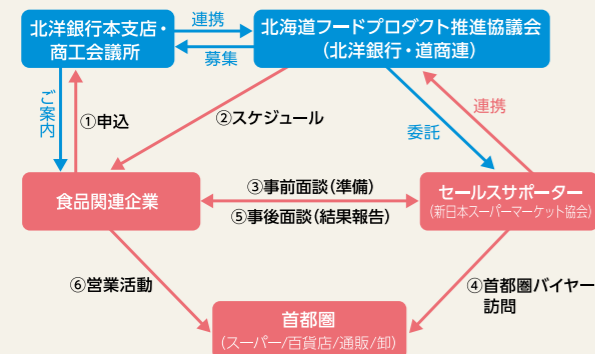
商品ブラッシュアップ個別相談会

個別相談会は各専門家による1対1の「個別形式」と複数の専門家による「ミーティング形式」の2種類があり、具体的な改善提案や、消費者が求める売れる商品づくりなどを聞くことができる相談会です。



セールスサポート

「食のプロダクトデザイン事業」は、当行が主体となり北海道商工会議所連合会(道商連)と組織した「北海道フードプロダクト推進協議会」が実施しています。参加企業はセールスサポーターとの面談を通して様々なサポートを受け、首都圏スーパーなどに販路拡大の営業を行います。



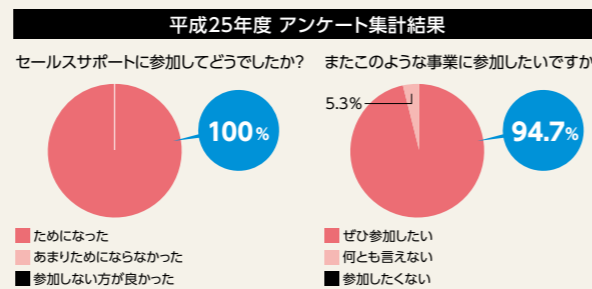
※セールスサポーターとは新日本スーパーマーケット協会スタッフのことです。

参加企業の声

客観的に商品の評価をしてもらい、大変ためになった。チャネルに問屋(卸)を入れてくれると、成約時にそこからいろいろと派生すると思うので嬉しい。

とても勉強になった。いままでに接点のない企業のバイヤーからの貴重な意見を、今後活かしていきたい。外食や飲食、ホテル等のチャネルがあるととっても良い。

様々な角度からアドバイスをもらうことができ、大変ためになった。

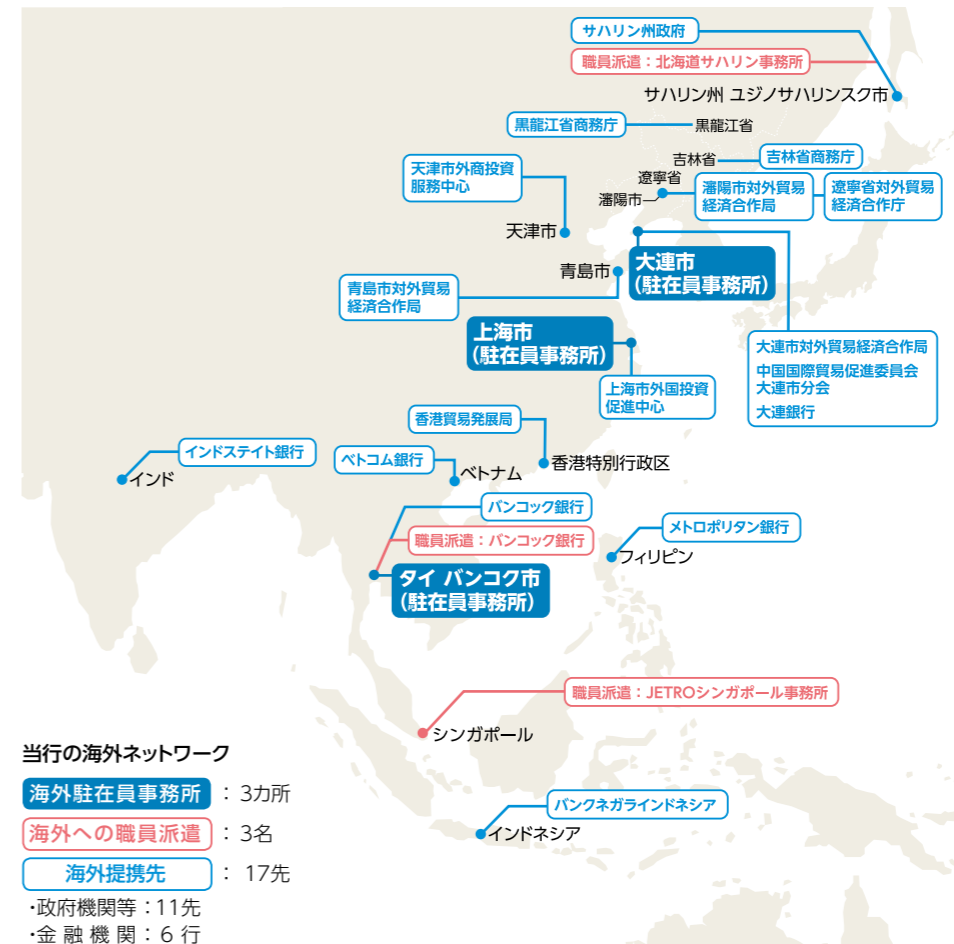


海外での事業展開支援

道内企業の国際化をサポートし、北海道経済の振興・活性化を図るためのコンサルティングを、国際部を中心に積極的に行っています。

北海道の高い知名度を活かした道産品の輸出拡大の可能性は大きく、特に輸出品目としての「食品」は「安心・安全」の評価を得て、アジア地域でのニーズが高まっています。当行は海外の駐

在員事務所や派遣職員、関係機関と連携し、北海道の「食」や「観光」をPRする展示会や商談会を積極的に行ってきました。道内各団体が行う海外PR活動にも協力しています。当行は、道内取引企業のニーズにお応えし、国際化についての経営課題をお客さまとともに解決していくことで、外為を含む総合取引を推進していきます。



当行の海外ネットワーク

- 海外駐在員事務所 : 3カ所
- 海外への職員派遣 : 3名
- 海外提携先 : 17先
 - ・政府機関等 : 11先
 - ・金融機関 : 6行



中国
現地のニーズを取引先にスピーディかつ的確に伝え、ビジネスチャンスに繋がれるよう積極的に取り組んでいます。2つの駐在員事務所や大連銀行などの提携先を活用して商談会を行うなど、ビジネスチャンスの提供と現地サポートに力を注いでいます。

ASEAN
平成26年1月にバンコク駐在員事務所を開設し、道内企業のASEAN諸国でのビジネス活動を支援する「オール北海道のビジネスセンター」として、道産品の販路拡大、企業の海外進出や観光誘致に積極的に取り組んでいます。ASEAN諸国への進出を希望する道内企業に、現地情報や、現地の提携金融機関を通じた口座開設、預金、融資、外国為替などの金融サービスを提供し、支援しています。

平成24年10月	タイ	バンコク銀行と業務提携契約
平成25年 2月	インドネシア	バンクネガラインドネシアと提携
平成25年 7月	フィリピン	メトロポリタン銀行と提携
平成25年12月	ベトナム	ベトコム銀行と提携
平成26年 1月	タイ	バンコク駐在員事務所を開設

インフォメーションバザール

北洋銀行インフォメーションバザールは、昭和59年から“北海道の生産企業と流通企業の出会いの場”として開催しています。札幌開催が20回を数えた後、お取引先企業の道外ニーズにお応えするため、平成17年度から首都圏での「インフォメーションバザール in Tokyo」、平成18年度からは関西圏での「インフォメーションバザール in Kansai」を開催し、道産食材・食品の国内販路拡大を支援しています。今年で30周年を

実行状況

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
出展社数	116	140	173
来場者数	約4,200名	約4,200名	約4,000名
商談件数	4,515件	3,486件	3,928件

ものづくりテクノフェア

平成19年から道内ものづくり産業の振興を目指して、展示型商談会「ものづくりテクノフェア」を開催しています。道内ものづくり企業がもつ優れた技術や製品の販路拡大を支援しながら、企業間の連携促進や情報交換、技術交流など当行がもつネットワークを活かしたビジネスマッチングの場を提供してきました。また、平成25年は「ほっかいどう受発注拡大商談会」(主催: (公財)北海道中小企業総合支援センター、(一社)北海道機械工業会)、「開放特許活用ビジネス交流会」(主催: 札幌市)と同日開催し、北海道のものづくり振興の新たなプラットフォームになっています。



ものづくりテクノフェア

雪はねボランティア

道内のさまざまな企業が連携して行う「雪はねボランティア」に参加しています。平成25年度は、三笠市と倶知安町で開催されたボランティアに参加しました。豪雪地帯での高齢者宅の雪はねを行うことで、地域との交流にも繋がっています。

ファンドで地域を応援

有望な技術をもつベンチャー企業や海外進出志向のある企業が成功するためには、融資での資金援助だけでなく、ファンドなどを通じた資本力増強と信用補完が効果的です。当行は、通常の融資に加え、企業のニーズに応じた各種ファンドを用意し、企業の事業展開をサポートしています。平成24年4月には、原則議決権をもたない種類株式を引き受けることで、発行

迎えたこの商談会では、青森銀行のご協力のもと、平成27年度の北海道新幹線開業に向けて、北海道と青森県の魅力を一体にPRする新しい試みを行いました。鹿児島銀行との連携による「南の逸品商談会」の同時開催も6回を数え、北海道から173社・団体、南九州から90社・団体の皆さまにご出展いただき、過去最大規模の開催となりました。当日は約4,000名のバイヤーの皆さまにご来場いただき、好評を得ました。



インフォメーションバザール

観光プロモーション

平成23年度から北海道と連携し、道内各地の自治体や観光協会などが地元をPRする場として「北洋大通センター」のスペースを無償で提供しています。観光は北海道の重要な産業のひとつであり、道内各地の魅力的な観光資源やイベントなどを広くPRしていただくことで、札幌圏と各地域間の交流がより活発になり、地域振興に寄与していきたいと考えています。



観光プロモーション



済株式数の5%超の株式取得を可能にした「北洋イノベーションファンド」を総額5億円で組成しました。

平成25年度活用状況

	支援先数
地域密着型金融推進ファンド	2
北洋銀行ドリーム基金	10
北洋イノベーションファンド	8

北洋銀行ドリーム基金

道内中小企業が取り組む新技術と新製品の研究開発に助成事業を行う公益財団法人北洋銀行中小企業新技術研究助成基金(愛称「北洋銀行ドリーム基金」)は、平成元年の基金設立から毎年3件300万円の助成を行ってきました。平成22年からは、今後成長が期待される「環境・省エネ」関連技術への研究助成を強化するため、助成枠を5件500万円に拡大。さらに平成25年度からは、助成枠を10件1,000万円に拡大し、北海道の中小企業の成長を支援しています。



ドリーム基金贈呈式

事業承継

経営者の高齢化や後継者不在による廃業が増える中、「事業承継」は中小企業にとって重要な経営課題のひとつです。当行は、こうしたお取引先の経営課題解決のお手伝いのため、平成18年から現在までで約4,000社のお取引先を訪問し、事業承継や株式移転、M&Aなどのニーズに沿った支援を行っています。中小企業がスムーズに事業承継することは、事業の継続や雇用の面などで地域経済の発展に不可欠です。今後も地域金融機関の重要な使命と考え、事業承継に取り組んでいきます。また、事業承継を含めた企業の事業戦略・経営課題のニーズ

提携先	
北海道中小企業家同友会	事業承継をテーマとしたセミナー
TKC北海道会	経営改善計画の策定

東日本大震災復興への取り組み

当行は、東日本大震災の影響を直接的・間接的に受けている皆さまをサポートし、一刻も早い復興のため様々な活動を行っています。

義援金口座開設について

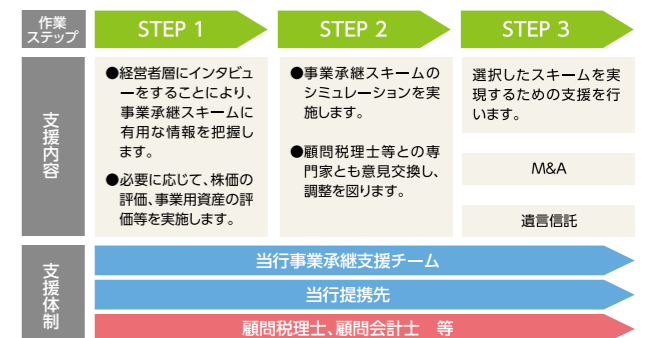
東日本大震災の被災者義援金受付口座を開設し、お客さまからお預かりした義援金につきましては、被災された方々の救済や被災地の復興に役立てていただくよう、日本赤十字にお送りしています(平成26年3月末日現在、総額5億3,435万円の義援金をお送りしています)。

義援金の振込について

東日本大震災の被災者の方々へのご支援を目的とした義援金など口座へのお振込にかかる手数料を平成27年3月31日まで原則無料とさせていただきます(インターネットなどEBを利用した際は有料となります)。

を抽出し最適なソリューションを議論すべく、お取引先企業・コンサルタント会社・本部・営業店の4者による「企業戦略会議(CSM=Corporate Strategy Meeting)」を展開しています。

事業承継支援内容



被災された方が取引されている他金融機関預金の払戻し

東日本大震災や原発事故で被災地から避難されている方々が、避難先で預金払戻しがスムーズにできるよう、被災地にある金融機関と連携しています。これにより被災地の22金融機関の預金について、当行の窓口で払戻しができます。対象の預金は、原則として普通預金・貯蓄預金・当座預金などで、1日10万円を限度に払戻しを受け付けています。

取引金融機関(避難されている方が預金をお持ちの金融機関)

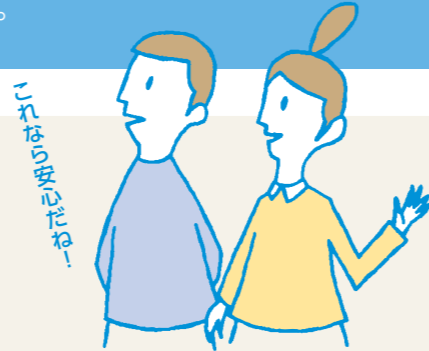
- 銀行 荘内銀行、山形銀行、岩手銀行、東北銀行、七十七銀行、東邦銀行、常陽銀行、筑波銀行、きらやか銀行、北日本銀行、仙台銀行、福島銀行、大東銀行
- 信用金庫 宮古信用金庫、杜の都信用金庫、石巻信用金庫、気仙沼信用金庫、ひまわり信用金庫、あぶくま信用金庫
- 信用組合 石巻商工信用組合、いわき信用組合、相双玉城信用組合



経営について

お客さまの明日が輝くお手伝いを。

夢をかなえる。大きな発展を遂げる。地域経済が元気になる。そのサポートをいつもお客さまの身近にいて努めたいと願っています。お客さまの明日が輝きを増すように。



お客さま満足度 (CS※) の向上を目指して

お客さまの利益・資産の保護と、利便性・健全性の向上を経営の重要課題のひとつと認識し、お客さまのニーズに合った商品・サービスの提供とセキュリティの向上などに積極的に取り組んでいます。

※CS:Customer Satisfaction

Delight～お客さま感動をめざして～

真の金融サービスをめざし、お客さま目線でサービスを実践するため、平成21年から当行の本支店、全職員をあげて「Changing!運動」を企業活動として取り組んできました。平成26年度からは「Changing!運動」に代わり、「Delight～お客さま感動をめざして～」を全行的なCS向上テーマとして一層のステップアップに取り組んでいます。全店で立ち上げたCS委員会では、職員のCSへの意識醸成を図り、「お客さまが感動する」接客スキル向上に努めています。

外部調査機関による店頭調査を継続的に行い、金融サービス

業に必要な接客姿勢と技術向上を目的としたモニタリングを全店で実施し、サービス品質の向上を図っています。

また、お客さまに好評の「杖ホルダー」と「ATMタッチペン」の設置、道内主要都市の一部店舗への車椅子配備などユニバーサルサービス向上に積極的に取り組んでいます。



ATMタッチペンの設置

ユニバーサルサービス研修

誰もが等しく受けられる公共サービスを実践するための「ユニバーサルサービス研修」では、「視覚障がい」「聴覚障がい」「認知症」への理解を深め、職員全員が共通認識をもってサービスできるよう努めています。



ユニバーサルサービス研修



ユニバーサルサービス研修

障がいがある方への対応

視覚障がいの方には、窓口受付の振込手数料をATM利用振込手数料と同額に引下げています。また、札幌市と協力し、段差での誘導や伝わりやすい声のかけ方など実践的な研修を行いました。耳の不自由な方には、「耳マーク」(耳が不自由であることを知らせていただき、必要なお手伝いを行うためのボード)、コミュニケーションボード(入出金・口座開設・名義変更な

ど窓口で希望する取引、手続きを指し示すボード)、筆談ボードを全店に置いてあります。

さらに、音声案内対応ATMを全営業店に1台以上設置、行員による「代筆」「代読」、店舗建替え時のバリアフリー設計などを実施。障がいがある方が安心してお取り引きいただけるよう様々な取り組みを行っています。



コミュニケーションボード



耳マーク

待ち時間短縮のための取り組み

「待ち時間短縮」は、お客さまからのご要望が多い課題のひとつであり、各営業店で改善のための取り組みを様々な角度から実施しています。

来店時間を事前に予約する「来店予約サービス」の一部実施、窓口待ち時間を表示する「時間表示ボード」の作成、事前に

繁忙日をお知らせする「繁忙日カレンダー」の設置、また、どうしてもお待たせしてしまう場合にお客さまに少しでも快適に過ごしていただけるよう「各種展示会の実施」などの改善策を実施しています。

お客さまの声の収集と反映

お客さまのご意見・ご要望を商品・サービスに活用するため、様々な形でお客さまの声をお伺いしています。店頭窓口で承ったご意見・ご要望をはじめ、ホームページの「お客さまの声ポスト」コーナー、店頭設置している「お客さまの声カード」などで寄せられたお客さまの声は一元管理され、大切な情報

として共有しています。また、定期的に「お客さまサービス向上分科会」を開催し、当行役員、本部部長、営業店長などによりCS向上策を議論し、お客さまの声を活かす仕組みづくりと苦情の再発防止や商品・サービスの改善に役立てています。

お客さまの声をお伺いする方法

- ホームページの「お客さまの声ポスト」コーナー(常設)
- 店頭設置の「お客さまの声カード」(常設)
- 各種フリーダイヤルなど

お客さま

お客さまの声を反映する仕組み

北洋銀行

お客さまの声を反映する体制

- お客さまの声を一元管理するとともに、役員を含め情報を共有
- 「お客さまサービス向上分科会」を定期的に開催し、改善策を検討・協議

商品・サービスの改善などに反映

安全性の向上・不正防止対策

お客さまにキャッシュカードを安全にご利用いただくために、平成18年3月にICキャッシュカードとクレジット機能付ICキャッシュカード「clover」の取り扱いを開始し、平成19年3月にはATM全台のIC対応化を完了しました。平成20年4月にはICキャッシュカードの発行手数料を無料にし、セキュリティの高いICカードへの切り替えを進めています。キャッシュカードの不正防止対策としてはATMコーナーに「携帯電話感受装置」を取り付けたほか、覗き見防止フィルターや後方確認ミラーの設置で覗き見を防ぎ、さらに、ATMに暗証番号入力画面で数字キーの並べ替えができる機能を追加しました。



商品・サービスの拡充

ローン商品

住宅ローンなどの個人資金ニーズにも積極的に対応しています。個人向けの貸出は、平成26年3月末の当行の道内向け貸出残高に対して32.1%を占めています。住宅ローンでは、金利や団体信用生命保険への幅広いニーズに対応するローンを取り扱うなど、お客さまのご要望に合わせて商品の内容を向上させています。また、マイカーローンや教育ローンなど、無担保ローンの商品ラインナップも充実させています。

預金商品

年金を当行でお受け取りいただいているお客さまに「年金受給者向け金利優遇定期」、社会貢献活動の一環として、お預けいただいた金額に応じて北海道内の希少動植物を支援する「ほっこり基金」に拠出する「ほっこり定期預金」をお取り扱いしています。また、平成25年9月から、お孫さまなどへ教育資金を一括贈与する場合、贈与額が非課税となる「教育資金贈与専用預金（愛称：エール）」をお取り扱いしています。

各種サービス

お客さまに、より便利にご利用いただくため、各種サービスの拡充を図っています。当行で発行しているクレジット機能付ICキャッシュカード「clover」をご利用のお客さま向けに、銀行取引での各種優遇サービスをご用意しています（当行ATM時間外手数料無料、銀行取引によるポイント加算など）。また、「clover」と合わせて住宅ローンを当行でご利用いただいているお客さま向けには、ATM当行宛振込手数料などの優遇も実施しています。平成23年4月から、札幌市営地下鉄の（乗車券+電子マネー）機能「SAPICA」を搭載した「clover SAPICA」、平成24年6月からはJR北海道の（乗車券+電子マネー）機能「Kitaca」を搭載した「clover Kitaca」の発売を開始しました。「Pay-easyサービス」、「ほくようweb口座振替受付サービス」については、取扱可能収納機関を順次拡大していきます。今後もお客さまのニーズにお応えし、商品・サービスの向上に努めていきます。

職員の多様な個性を生かし、その能力を十分に発揮できる働きがいのある職場の実現に向けて

札幌北洋グループは、「職員がその能力を十分に発揮できる働きがいのある職場をつくる」との経営理念のもと、職員の多様な個性を生かして、より活力ある組織風土の醸成と職員個人の生活の充実を目指した取り組みを行っています。

女性活躍支援室

職員全体の約4割を占める女性職員の一層の活躍を支援するため、女性活躍支援室を人事部内に設置しています。ここでは、女性職員のキャリア・アップやライフ・プランについての相談や育児休業中の職員の職場復帰の支援を行っています。また、「子育て」や「介護」についての相談・アドバイスを全店の職員で情報交換できるコミュニティの場を提供するなど、職場も協力できる組織、風土づくりを目指しています。



育児休業者意見交換会

ワークライフバランス（仕事と生活の調和）

働きがいのある職場づくりのためにワークライフバランスの実現に取り組み、職員の仕事と家庭の両立を積極的に支援する制度を導入しています。

- 企業内託児所「ほっこりとなかまたち」（平成18年4月開設、職員・パートタイマーが利用）
- 育児休業（子が1歳6ヶ月に達するまで）
- 育児休暇制度（配偶者の産後8週間以内に10日間取得可能）
- 育児短時間勤務制度（小学校6年生までの子を養育する職員、6時間勤務と7時間勤務の選択制）
- 時間外労働の免除（小学校6年生までの子を養育する職員）
- 子の看護休暇（有給休暇で対応）
- 退職行員再雇用制度（子育てなどが落ち着いた元行員を再雇用する制度）
- 介護休業（要介護状態にある家族の介護を行っている職員）
- 旧姓の使用（多様化する働き方を支援）

メンタルヘルス

複雑化する現代社会において、こころに悩みを抱える人が増えていることを受け、平成14年1月に専門カウンセラーとの1対1の電話・メール・面接によるカウンセリングを利用できる「メンタルヘルス・ケア制度※」を設け、職員と家族の「こころの健康」を保つお手伝いをしています。また、管理監督者のラインケアの実現に向けて、役付者を対象とした「職場のメンタルヘルスセミナー」などを実施しています。

障がい者雇用

障がいのある方が地域の中で安心して暮らせる社会の実現と、障がいのある方の社会的自立を支援するために障がい者雇用に取り組んでいます。雇用状況は、平成26年3月現在で法定雇

このような取り組みによって、当行は平成19年に道内企業で初めて次世代法に基づく「子育てサポート企業」に認定され、厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」の使用許可を得ました。平成25年には2回目を取得し、子育て事業に継続して取り組んでいます。

また、仕事と家庭の両立支援や、職員の健康への配慮を目的に1週間の連続休暇や勤続年数に応じたリフレッシュ休暇による有給休暇の取得を促すほか、毎週水曜日の定時退行日や年2回の定時退行週間を実施しています。



企業内託児所「ほっこりとなかまたち」

※メンタルヘルス・ケア制度

実施者 北洋銀行健康保険組合
 利用対象 被保険者（本人）とそのご家族（被扶養者）
 利用方法 電話・メール・面接による相談。
 名前、相談の内容等のプライバシーは厳守されています。

人材育成

経営理念である「北海道の洋々たる発展の礎となる銀行」の職員としてふさわしい知識水準をもち、お客さまの立場に立った視点で質の高いサービスを提供できる人材を育成するため、職能別、階層別の各種研修を行っています。また、「能力開発チャレンジ制度」を設け、職員が自己啓発に取り組める環境づくりや

用率を達成しています。今後も個人個人の能力や適性に合った働く場を拡大するなどして障がい者の雇用に積極的に取り組んでいきます。

人材育成計画

	平成24年度		平成25年度		平成26年度（予定）	
	研修実施回数	延べ受講者数	研修実施回数	延べ受講者数	研修実施回数	延べ受講者数
若手行員の早期戦力化	10	200	15	200	15	200
融資実務能力強化	55	1,200	50	1,000	50	1,000
顧客対応力強化	35	650	35	700	40	1,400
その他研修	30	1,050	30	1,100	40	800
計	130	3,100	130	3,000	145	3,400

積極的なIR活動を通じた株主・投資家の皆さまとの信頼関係構築

株主・投資家の皆さまと長く揺るぎない信頼関係を築くために、適時・適所な情報開示に加えて会社説明会の積極的な開催など、株主・投資家の皆さまとコミュニケーションをとる機会をより拡充していくことで、当行についての理解を深めていただき、常に適切な評価を獲得できるようIR活動の強化に努めています。

札幌北洋グループのディスクロージャーポリシー（情報開示に関する基本的な考え方）

1. 当行は、金融商品取引法、会社法、銀行法および金融商品取引所の規則その他の関係法令等を遵守し、適時適切に情報の開示を行います。
2. 当行は、お客さま・株主・投資家等が当行の実態を正確に認識し判断できるよう、財務内容、経営方針、事業戦略等に関して真実かつ正確な情報開示を行い、積極的なディスクロージャー活動に努めます。
3. 当行は、開示した会社情報については開示後速やかに、また、アナリスト・機関投資家向けのインフォメーション・ミーティング資料についても原則同日中に当行ホームページに掲載するなど、公平な情報開示に努めます。
4. 当行は、会社情報の開示にあたって金融商品取引所の定める方法のほか、インターネット、各種印刷物等の様々な方法を活用し、より広くわかりやすい開示に努めます。
5. 当行は、情報開示を適切に行うための体制の整備・充実に努めます。

機関投資家向け説明会

毎年6月と12月に機関投資家向け説明会を開催しています。説明会では、頭取より、直近の決算内容や経営戦略と配当方針などを説明した後、投資家の皆さまからのご質問を受け付けているほか、説明会で使用した資料はホームページで公表しています。また、機関投資家の皆さまのご要望に応じて、小規模説明会や個別ミーティングも随時開催しています。

主なIR活動

IR活動	平成25年度	
	回数	場所
株主総会	2	札幌
機関投資家向け説明会 (ラージミーティング)	2	東京
機関投資家向け小規模説明会 (スモールミーティング)	6	札幌、東京
機関投資家向け個別ミーティング	14	札幌、東京
個人投資家向け会社説明会	5	札幌、函館、旭川、帯広、釧路

個人投資家向け会社説明会

平成25年8月に、札幌で個人投資家向け会社説明会を開催したほか、平成25年8月から9月にかけて函館・旭川・帯広・釧路の各都市でも説明会を開催し、合計で1,066名の個人投資家の皆さまにご来場いただきました。説明会では、頭取より、北洋銀行の地域金融機関としての位置づけや今後の事業展開、CSRへの取り組み状況などについて説明したほか、投資家の皆さまからのご質問を受け付け、双方向のコミュニケーションを図っています。今後も説明会などの機会を通じて、個人投資家の皆さまに積極的に情報を発信してまいります。



個人投資家向け会社説明会

IRツール

株主、投資家の皆さまに、より充実した情報をご提供していくため、IRツールの拡充に努めています。



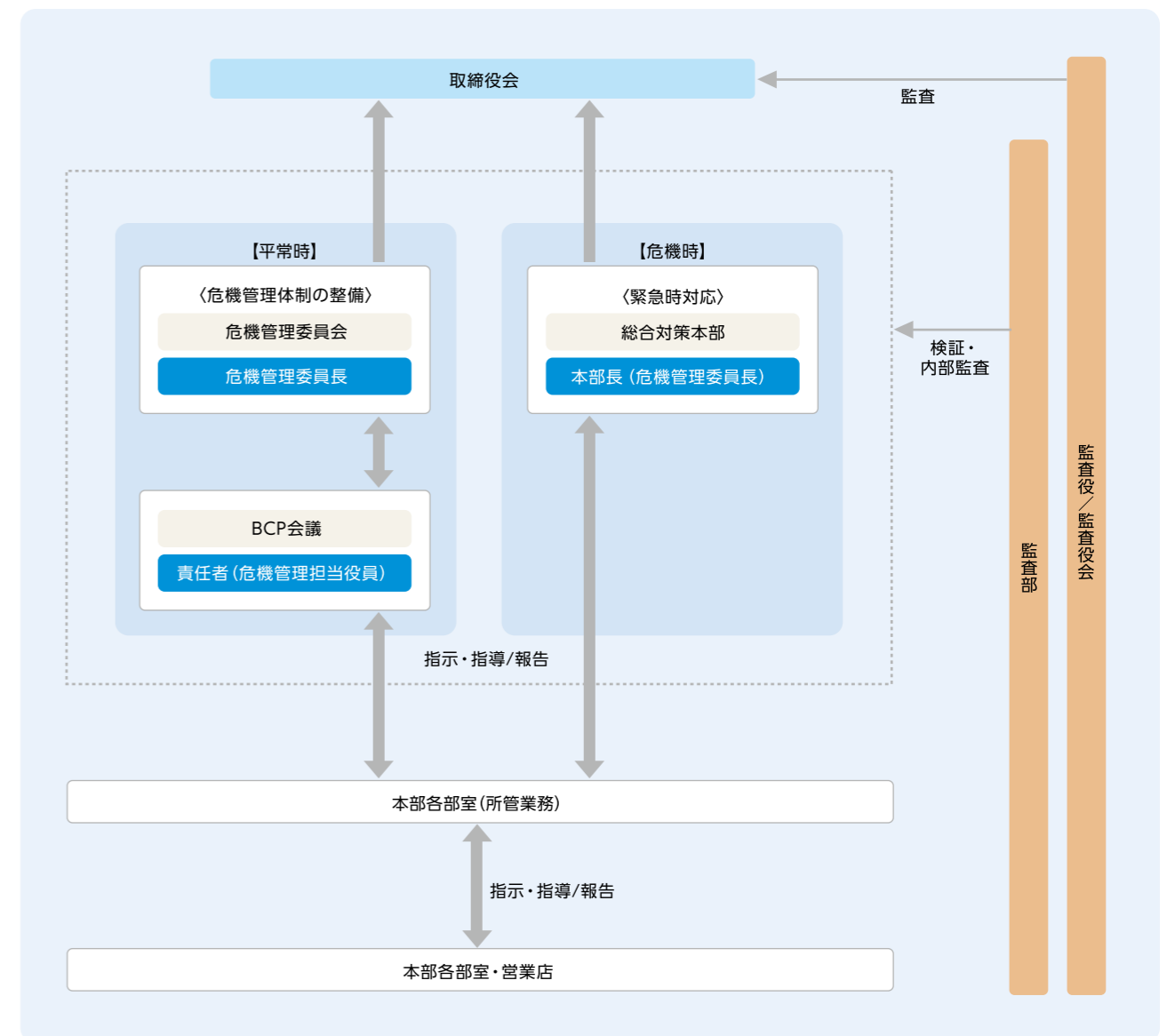
主なIRツール

危機管理体制と緊急時業務継続計画に関して

地域金融機関としては、万が一、災害等不測の事態が発生した場合でも、その影響を最小限に留め、業務を継続し、もしくは早期に業務を再開する責務があります。

当グループでは、「危機管理規程」等を定め、グループ各社で協力し危機に対応できるよう体制整備に努めています。なお、当行の「業務継続計画」では、リスクシナリオとして「新型インフルエンザの発生」および札幌市直下型の「大地震災害の発生」を想定、特定した重要業務を継続していくために「緊急時対応要領」などのマニュアルを作成し、定期的に訓練を実施しています。

危機管理体制図



コーポレートガバナンス体制の強化に向けて

当行は、経営体制として監査役会設置会社を選択しています。

当行は、監査役会設置会社の体制を維持しながら、現制度の枠の中で、より効果的なガバナンス体制の確立に努めています。

社外取締役の選任

経営の透明性をより向上させるため、社外取締役2名を選任しています。社外取締役が社外監査役を含む監査役会と連携することで、取締役の業務執行をモニタリングする体制を構築しています。

グループ報酬委員会の設置

取締役への報酬の決定に係る客観性と透明性を保ち、グループ全体の報酬水準を調整することなどを目的に、社外取締役などで構成するグループ報酬委員会を設置しています。

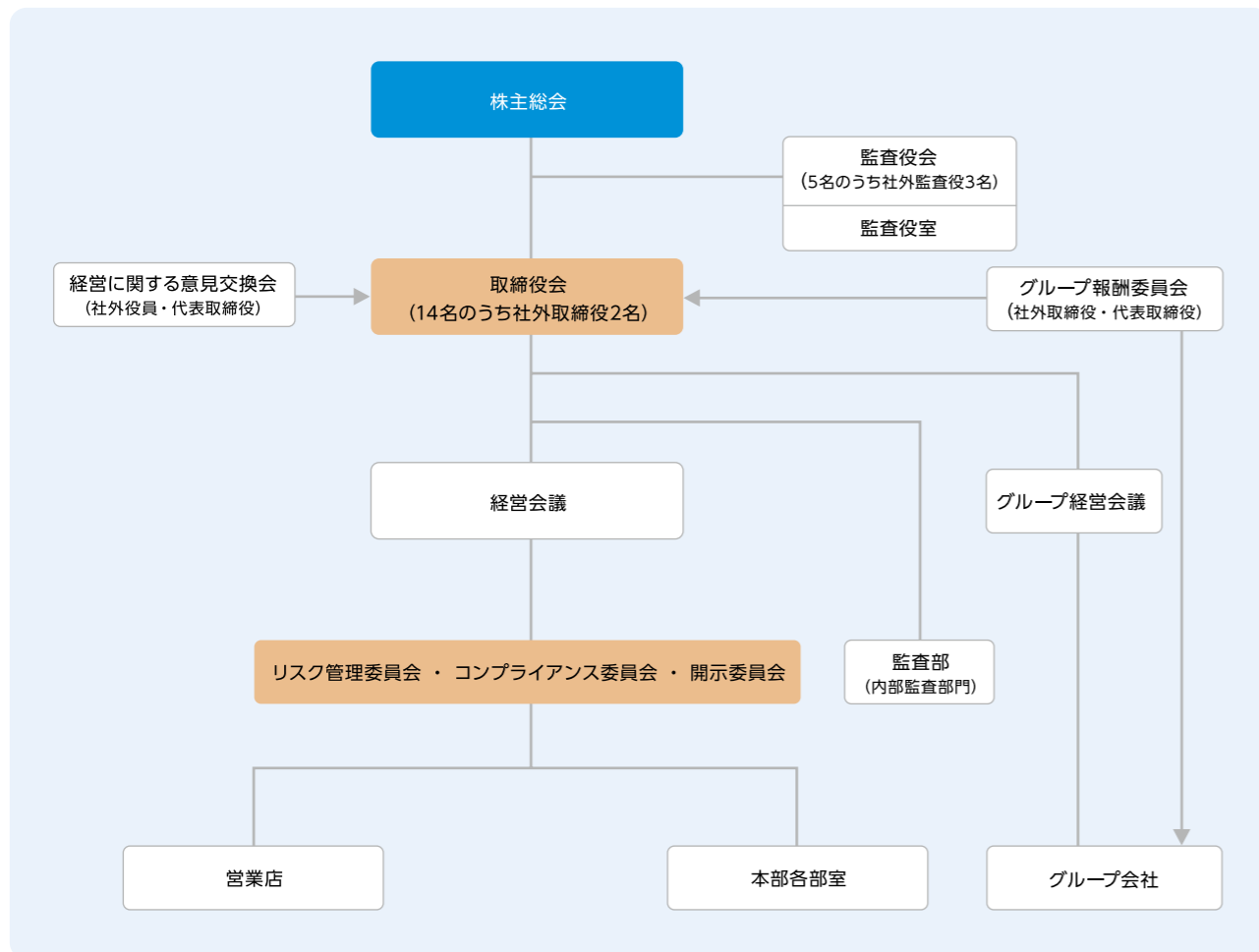
独立役員の確保

一般株主の利益に配慮した公平で公正な意志決定プロセスを保つよう努めています。東京証券取引所などの規程に基づいて設置が義務づけられた独立役員※1については、東京証券取引所のガイドラインなども踏まえ、社外取締役2名、社外監査役3名の計5名を独立役員として届出※2しています。

※1:「一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役又は社外監査役」と定義され、東京証券取引所ほか各証券取引所の規程に基づき、1名以上の確保と開示が上場会社に義務付けられています。また、取締役である独立役員を少なくとも1名以上確保するよう努めなければなりません。

※2:東京証券取引所と札幌証券取引所に対して届出しました。

コーポレートガバナンス体制概要図



コンプライアンスと顧客保護等の態勢

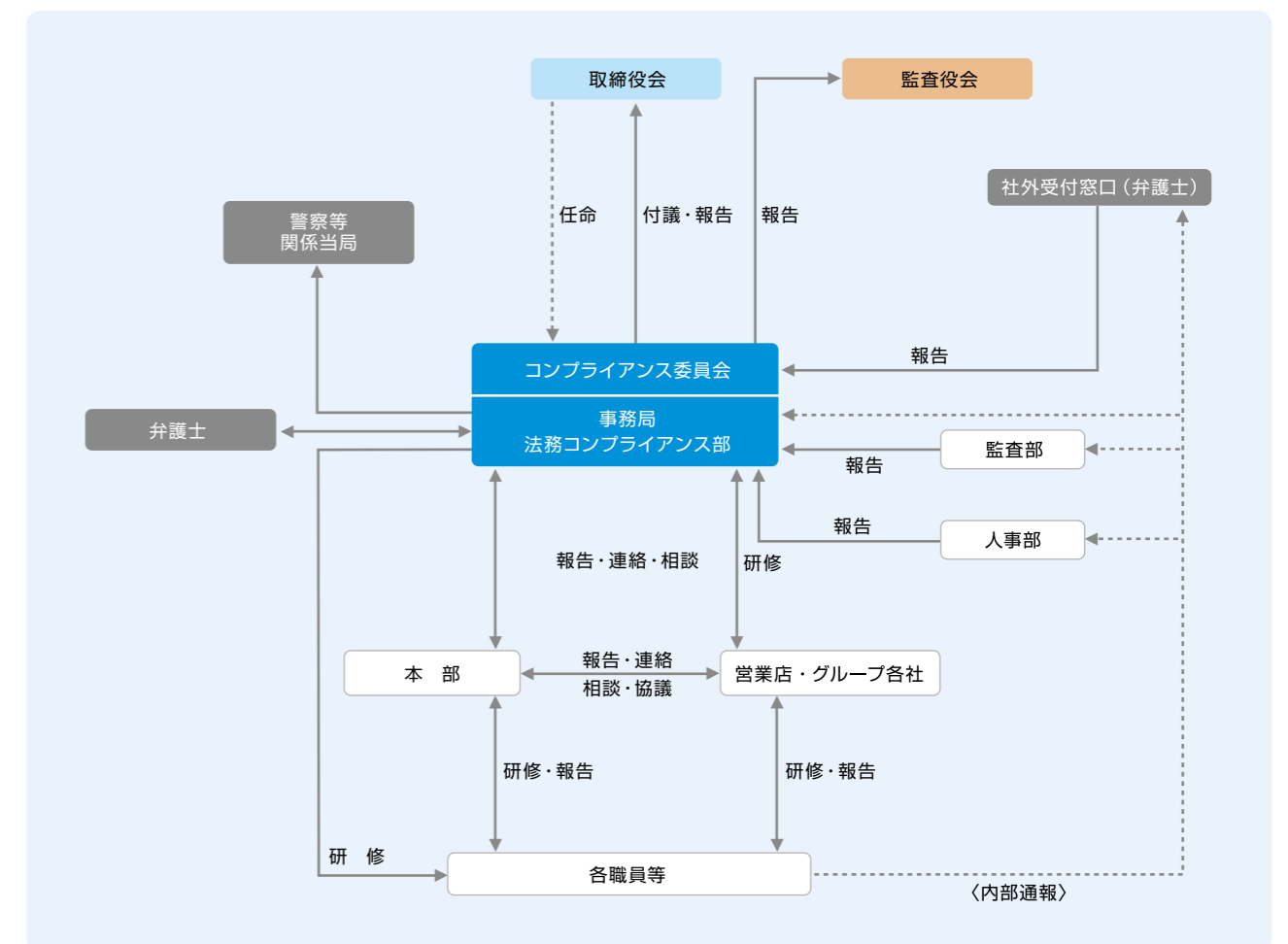
当行は、コンプライアンスとお客さまの保護を経営の最重要課題のひとつとして、法令や社内規則などに従い、人倫を守る組織運営と企業風土の醸成を大前提としています。

コンプライアンス態勢

法令などを遵守する規程によって、コンプライアンス態勢と行動規範の基本方針などを定めています。コンプライアンス態勢確立のため、法務コンプライアンス部が事務局となっているコンプライアンス委員会を設けています。その委員長と委員は頭取が任命します。また、本部各部室、各営業店にはコンプライアンス責任者とコンプライアンス担当者を配置し、コンプライアンスについての状況などを把握し、方針を徹底・浸透させています。コンプライアンス委員会は、遵守すべき法令などの解説や違法行為を発見した場合の対処方法などを具体的に示し

たコンプライアンス・マニュアルを全役職員などに配布しています。また、態勢強化のための具体的な計画であるコンプライアンス・プログラムを定め、見直しを行い、取締役会に報告や会議にかけると行っています。不正行為やコンプライアンス上の問題をいち早く把握し、正すために内部通報制度を設けています。社内通報窓口と社外通報窓口(弁護士)があり、グループ各社の役職員、パートタイマー、派遣社員を含めすべての関係者が利用できます。

コンプライアンス態勢図



職員等への徹底方法

コンプライアンス徹底のため各職場でコンプライアンス担当者を中心に、コンプライアンス・プログラムに基づく研修を繰り返し行っています。また、コンプライアンス責任者や担当者、新任

役職者などを対象に、階層別のコンプライアンス集合研修を継続して行い、コンプライアンス態勢を強化しています。

反社会的勢力への対応

銀行のもつ公共的使命と社会的責任を認識し、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力への資金提供の拒絶、不当要求・不当介入の排除など、反社会的勢力との取引を含めた一切の関係を断つ態勢の整備に努めています。「反社会的勢

力への対応に係る基本方針」に従い、各種預金取引、融資取引、貸金庫取引などの各種取引に「暴力団排除条項」を導入しています。また、一元管理部署を中心に警察や弁護士などと連携し、反社会的勢力の排除を図っています。

個人情報保護・お客さま保護等

情報資産を有効に活用し、重要情報を適切に保護するための「セキュリティポリシー兼セキュリティスタンダード」を定め、適時適切に遵守状況のチェックを行っています。「個人情報の保護に関する法律」に従って定めた「個人情報保護宣言(プライバシーポリシー)」を公表し、情報の漏えいなどを防ぐための態勢整備や開示などの請求の受付体制を整えるなど、個人情報保護のための安全管理措置も整備しています。

また、「金融商品の販売などに関する法律」に基づいて、お客さまの利便性向上や保護を目的とした「お客さま保護等管理方針」や、お客さまに適切な金融商品を提供するための「勧誘方

針」などを定め、適正な業務運営によってお客さまからの信頼を高めるよう努めています。お客さまの利益が不当に害されることを防ぐために「利益相反管理ポリシー」「利益相反管理規程」を定め、利益相反に該当する取引を適切に管理する態勢を整えています。

さらに、「中小企業者などに対する金融の円滑化を図るための臨時措置に関する法律」(平成21年12月～25年3月施行)の主旨に基づいて「金融円滑化基本方針」などを定めて、お客さまに安心してご相談いただけるよう努めています。これらの方針などは、ホームページなどで公開するとともに、役職員などに周知徹底し、お客さま保護等管理態勢を強化しています。

リスク管理

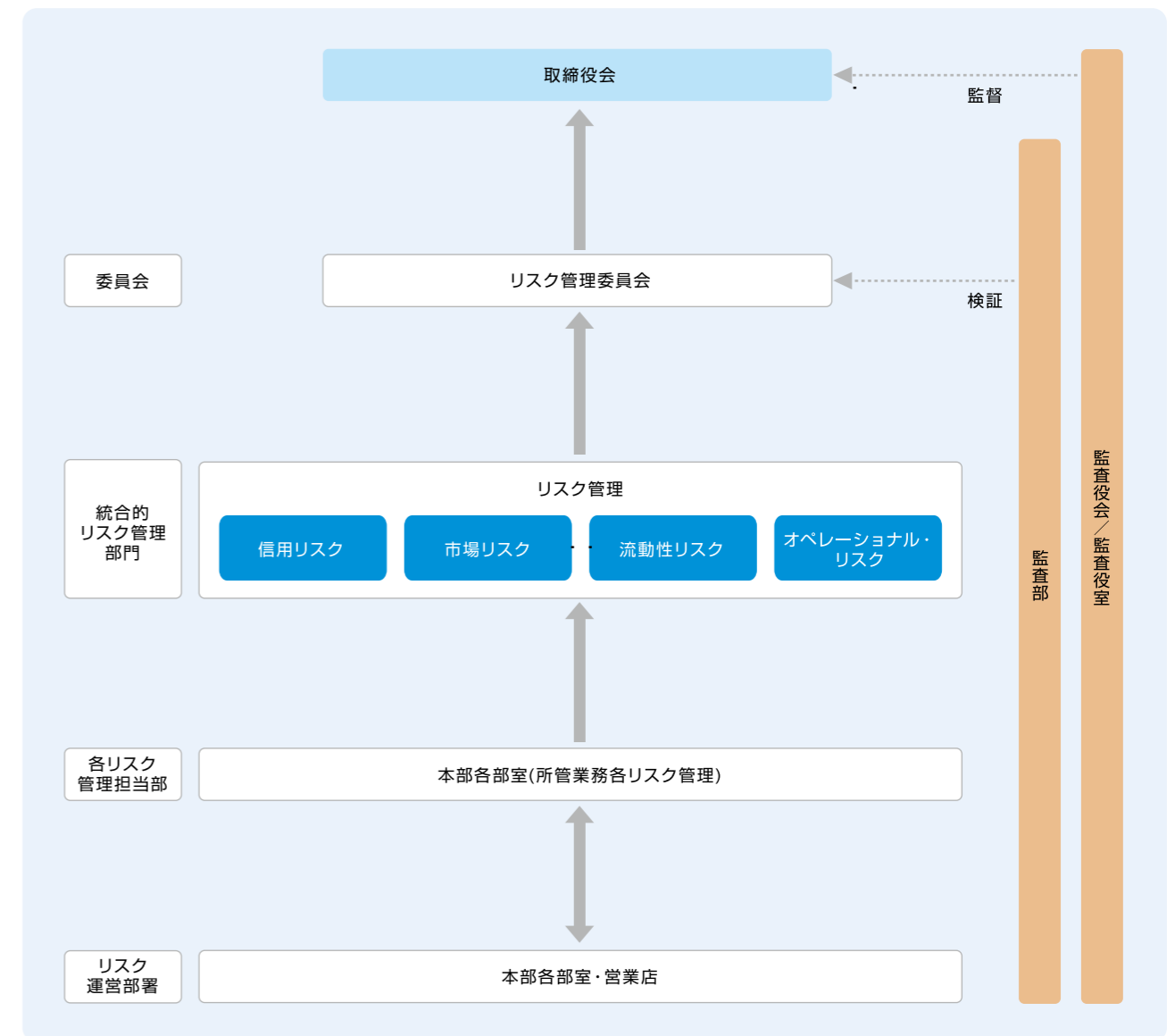
金融の自由化などの進展で、金融機関を取り巻くリスクも一段と多様化・高度化しています。当行では、これらのリスクを適正に管理・コントロールすることで、お客さまに安心してお取引いただき、また、選ばれる金融機関となるため、リスク管理態勢の強化・充実に取り組んでいます。

リスク管理態勢

リスクを「信用リスク」、「市場リスク」、「流動性リスク」、「オペレーショナル・リスク」に分け、リスクの特性に応じて把握・評価し、管理しています。毎月開催される「リスク管理委員会」では、これらの主要なリスクの状況を把握し、リスクの管理方針や管理態勢の整備について協議しています。

また、銀行全体のリスクを統合的に管理するために「統合的リスク管理方針」、「統合的リスク管理規程」を定め、定性面・定量面から適切に対応し、リスク全体を経営体力の範囲内に制御することで自己管理型のリスク管理を行っています。

リスク管理体制図



信用リスク

「信用リスク」とは、信用供与先の財務内容の悪化や支払能力低下などで資産の価値が減少または消失し、当行が損失を被るリスクと、大口信用供与先、特定業種または特定グループなどへの貸出資産などの偏在・集中から生じるリスクです。信用リスク管理には2つの捉え方があります。ひとつには、個別取引先の貸出金をその信用状況に応じた適切な手法によって管理すること。もうひとつは、特定の取引先や業種への貸出が偏らないよう、適切にポートフォリオを管理し、信用リスクを分散できる貸出運営を行うことです。「リスク管理委員会」と「信用リスク管理検討会」では、グループ

の与信全体についてのポートフォリオを適切に管理し、グループ全体の信用リスクの把握と検証を行っています。また、審査部門の独立性の確保と審査機能の充実に努め、行内・行外研修などを活用して審査管理能力の向上に努めています。なお、信用リスク管理の高度化に関しては、信用供与先や案件の債務履行の確実性を表す内部格付制度の拡充に努めています。さらに、信用リスク・アセット算出システムなどを継続して運用しているほか、デフォルト先の最終的な損失率を見積もるための対応なども進めています。

市場リスク

「市場リスク」とは、金利の変動や有価証券の価格変動、外国為替相場の変動などによって保有する資産の価値が減少し、損失を被るリスクです。市場リスクの発生を予測し、回避や軽減を適切に行うことは金融機関の経営にとって非常に重要です。「リスク管理委員会」では、当行の運用資産の市場リスク状況を把握し、チェック・管理する態勢をとっています。

「有価証券運用・リスクテイクポリシー」にローリスク運用、中長期分散投資、市場流動性の重視などの基本方針を定め、ALMの調整、余資運用を目的として有価証券運用を行っています。

流動性リスク

「流動性リスク」とは、予期しない資金の流出で、必要な資金確保が困難になったり、通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることで損失を被る「資金繰りリスク」と、市場の混乱などで市場取引ができなくなったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることで被る「市場流動性リスク」があります。

当行は、こうした「流動性リスク」を適切に管理するための方針と基本事項を「流動性リスク管理規程」に定めています。

資金繰り管理部門は、日次・月次の資金繰り動向を把握して資

また、相場観に過度に依存することや、短期的な収益確保を狙った投資行動はとらないこととしています。

具体的な有価証券運用方針は、経営陣を含めた「有価証券運用会議」で協議されています。市場リスク管理については、牽制機能を確保するため、市場取引部門(フロントオフィス)、市場リスク管理部門(ミドルオフィス)と後方事務部門(バックオフィス)を厳格に分離し、「リスク管理委員会」でリスクリミット・アラームポイント・損失限度・運用上限などを設定し、実効的なリスクコントロールを行っています。

金繰りリスクの抑制に努め、流動性リスク管理部門は、資金繰りと流動性リスクに問題がないかをモニタリングしています。市場環境や当行の資金繰り状況が大きく変化した場合は直ちに経営陣に報告し、「リスク管理委員会」などで必要な対策などについて速やかに意思決定を行います。なお、換金性の高い流動性資産を十分に確保するための最低流動性準備量を定めて日次でモニタリングしているほか、万が一流動性リスクが顕在化した場合に備えたマニュアルなども整備し、実効性を確保するための定期的な訓練を行っています。

オペレーショナル・リスク

「オペレーショナル・リスク」とは、業務の過程や従業員の活動、システムの不適切、または外生的な事柄によって損失が発生するリスクです。

当行は、オペレーショナル・リスク管理についての基本事項を「オペレーショナル・リスク管理規程」に定め、オペレーショナル・リスクをその特性に応じて「事務リスク」「システムリスク」「法務リスク」「有形資産リスク」「人的リスク」に分けて管理しています。

また、オペレーショナル・リスクを未然に防ぐ、あるいは、発生時には影響を最小限に留めるためにオペレーショナル・リスクの

管理統括部署を設置して、各リスクの管理を専門的な立場から行っています。顕在化したオペレーショナル・リスク管理では内部損失データの収集と分析を行い、潜在するオペレーショナル・リスク管理については、そのリスクを特定し、評価し、管理・削減する手法としてRCSA(リスク・コントロール・セルフ・アセスメント)を取り入れ、その一連のプロセスを定期的を実施しています。なお、平成19年3月末基準で金融庁より承認を受けて、「粗利益配分手法」を採用し、オペレーショナル・リスク管理の一層の高度化に取り組んでいます。

CSRレポート2014に対する第三者意見

札幌北洋グループの「CSRレポート2014」は、札幌北洋グループのCSR活動を中心にまとめたレポートとして位置づけられます。札幌北洋グループにとっての2014年は、同グループの課題であった公的資金を完済し、次の発展ステージへ向けた飛躍が期待される節目でもあります。「『挑戦』～北海道の新しい価値を創造し、ともに成長するステージへ～」と題された

新中期経営計画の宣言は、北海道の新たな価値創造により、同グループや道民・道経済の成長を高らかに宣言しており、大いに期待が高まります。北海道の広大で魅力的な自然、食と観光、再生可能エネルギー等、全国はもとよりアジアに誇れる北海道の優位性を活かした同グループの「挑戦」を、本レポートから読み取ってみたいと思います。

● 評価できる点

本年度のレポートは、より親しみやすいデザインに変化し、CSRの基本姿勢もよりフレンドリーに分かりやすくまとまっています。「ほっくー基金」が前面に出て、取組の詳細が紹介されています。構成上の工夫のみに留まらず、スタッフ、実践者、受賞者やお客様、担当者からの「声」も紹介されています。ステークホルダーとの距離を近づけようとするこれらの編集上の工夫は効果的であり、「ともに成長する」という意気込みを感じさせ、大いに評価に値する取組であると思われます。

公的性格を帯びた道内を代表する大企業として、札幌北洋グループは多岐に渡るCSRの実践を行っています。これらの取組が「環境保全」、「医療福祉」、「教育文化」という三つの重点取組により整理され、分かりやすく説明されています。地域における同グループの信頼感を醸成するに十分なバランス

とプログラム内容を有しています。今後、これらの重点取組領域の実践がますます進展し、道民に広く認知されることを期待します。

特に、今後の北海道経済と道民の元気を作り上げる鍵となる「食と観光」領域の取組は注目に値します。フードビジネス育成、観光関連産業振興、北海道新幹線関連企画等、同グループが有している専門性やネットワークを最大限に生かした多彩な活動は北海道地区の白眉であり、他組織では代替することができない貢献をもたらしています。新たな北海道価値創造の中核に位置づけられるこれらの取組は、中長期的なおかつ戦略的視点に立ち、今後ますますの継続的躍進を期待したいところです。

● 今後期待する点

札幌北洋グループにとって、今後最大のチャレンジを一言でいえば、「PDCAサイクルの実践による自己革新的経営の徹底」ということとなります。いくつか具体的な例を挙げながら述べます。

まず本レポートで述べられているコンプライアンス領域の取組です。地域を支える公的金融機関に相応しい、実に信頼感溢れる説明が展開していますが、従業員の意識や理解はどのような現状であり、今後、どのような課題解決が必要なのでしょうか。現状評価から導き出される課題と解決の方向性、その方向性にどの程度進んでいるのかが明らかになることにより、PDCAを取り込んだコンプライアンス経営の存在意義があります。札幌北洋グループには、道内企業の手本として、最も革新的なコンプライアンス経営を実践して欲しいという願望は、各ステークホルダー共通の願いであります。

同様な課題は、CSR事業の各領域に関しても言えます。現

状評価と課題把握に引き続き、CSR事業の内容が各ステークホルダーにどの程度伝わり、どのように理解されているのでしょうか。コンプライアンス経営やCSR経営の示唆するところは、コンプライアンスやCSRを経営の一部と位置づけ、本業の事業とともにPDCAサイクルの対象とすることを意味しています。日本を代表する優良企業でさえ困難を伴う実践ではありますが、新たなステージへと旅立つ札幌北洋グループには、是非とも、率先してチャレンジして頂きたい重要な課題であります。

その他、CS経営(お客さま満足経営)やES経営(従業員満足経営)も全く同様ですが、お客さまの満足度向上、地域貢献度向上、従業員満足度向上の先に地域信頼度No.1の事業体があります。札幌北洋グループの更なる努力と躍進に期待しつつ、地銀No.1の宣言を本レポートで読ませて頂くことを待ち望んでおります。



北海道大学
大学院メディア・コミュニケーション研究院
国際広報論分野・教授

伊藤 直哉

略歴

カトリック・ルーヴァン大学(ベルギー)大学院博士課程修了。同大学高等哲学社会研究所研究員、北海道大学言語文化助教授、北海道大学大学院国際広報メディア研究科助教授等を経て、2009年より現職。主な専門領域は、国際広報論、産業蓄積論(ITセクター等)、地域観光振興論等。専門を生かし、産学官連携、北海道CSR研究会等の実践活動も数多く行っている。



この印刷物は、震災復興型カーボンオフセット用紙を使用することにより、CO₂削減事業ならびに東北経済復興を応援しております。



FSC®認証紙製品を使用する事により責任ある森林管理を支援しています。



この印刷物は環境にやさしい「植物油インキ」を使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

株式会社 北洋銀行 経営企画部

〒060-8661 札幌市中央区大通西3丁目7番地

電話 011-261-1311 (代表)

<http://www.hokuyobank.co.jp>

